



江別市スポーツ協会

創立70周年記念誌

目次

ご挨拶

江別市スポーツ協会会長 高間専逸	1
江別市スポーツ協会小史	2
加盟団体のあゆみ（順不同）	
江別市陸上競技協会	8
江別バレーボール協会	10
江別卓球連盟	12
江別バスケットボール協会	14
江別野球連盟	16
江別テニス協会	18
江別水泳協会	20
江別弓道連盟	22
江別バドミントン協会	24
江別スキー連盟	26
江別市スポーツ少年団	28
江別ソフトテニス連盟	30
江別柔道連盟	32
江別剣道連盟	34
江別サッカー協会	36
江別相撲連盟	38
江別空手道連盟	40
江別ソフトボール協会	42
江別ゲートボール協会	44
江別少林寺拳法協会	46
江別パワーリフティング協会	48
江別市武術太極拳連盟	50
江別ミニバレー協会	52
江別パークゴルフ協会	54
江別新体操協会	56
歴代役員	58
栄誉に輝く団体、個人	63
江別市スポーツ協会規約	66
編集後記	69



ご挨拶

江別市スポーツ協会 会長 高間 専逸

江別市スポーツ協会創立70周年にあたり、昭和・平成・令和と受け継がれてきた足跡をたどるとともに、80年・90年・そして100年に向けて明るい未来と希望を綴る「70周年記念誌」を発刊できましたことは、まことに意義深く喜びに堪えないところであります。

ご承知のとおり当協会は、昭和25年に市内に組織されるスポーツ団体を総括し、その団体との連絡調整を図るとともに、スポーツ振興と普及を通して、市民の健全な発展と明るく豊かな市民生活の形成に寄与することを目的に設立されました。「江別体育連盟」として8団体でスタートを切り、昭和29年の市制施行に合わせて「江別市体育協会」に、令和2年には「江別市スポーツ協会」に改称し、25団体を擁する組織となっております。

この70年という長きに亘る歩みは、歴代会長をはじめ多くの諸先輩方の熱い情熱と、江別市並びに江別市教育委員会をはじめ、多くの関係機関、関係各位の並々ならぬ努力の賜物であり、深く感謝を申し上げる次第であります。

さて、今日の生活やスポーツ活動を取り巻く環境は大変厳しい状況の中ではありますが、スポーツは時代を超えて人々に夢や感動を与えてくれます。それだけに、スポーツに親しむことは、明るく元気にいきいきとした生活を送る上で、非常に大きな意義を持っていると考えます。

今、「人生100年時代」と言われており、市民の健康志向はますます高まっております。少子化が進む中で競技人口を増やし、競技力の向上と時代を担うアスリートの発掘、指導者の養成、指導力の向上など、スポーツ協会の果たす役割は非常に大きいと思われまます。

当協会といたしましても、多様化するスポーツニーズに対応できるよう各加盟団体、関係機関等と連携を図りながら、施設環境の充実と各スポーツ団体への支援体制に努めるとともに、江別市が掲げております「健康都市宣言」にふさわしい、元気で健やかな街づくりに貢献できますよう、より一層の努力を重ねる所存であります。

終わりに、本記念誌の発刊に当たり、貴重な資料や原稿をお寄せいただきました関係各位に厚くお礼申し上げます、ご挨拶といたします。

江別市スポーツ協会小史

＜平成13年度(2001年度)～令和2年度(2020年度)＞

当協会は昭和25年(1950年)に江別体育連盟として創立し、江別市が市制施行した昭和29年(1954年)に江別市体育協会と改称、創立70周年を迎えた令和2年(2020年)4月に江別市スポーツ協会に名称を変更しました。

節目の創立70周年を関係者が相集い、記念式典、功労者表彰、祝賀会、記念講演等の実施を計画しておりましたが、前年に中国で発生したといわれる新型コロナウイルス感染症は瞬く間に全世界に感染拡大してしまいました。

国内でも小・中・高校・大学等が全面休校、各種のイベント、スポーツ大会が中止を余儀なくされ、4月には全国に緊急事態宣言が発出されました。2020東京オリンピック・パラリンピックは一年延期され、中体連、高校総体をはじめ全国大会、全道大会のほとんどが中止となり、スポーツ界への影響は測り知れない一年となりました。

また、不要不急の外出自粛、都道府県間の往来自粛、飲食業等への営業制限等々による経済への打撃は深刻なものとなり、また、日常生活にも大きな混乱が生じました。

このような状況を鑑み、創立70周年記念事業として諸事業を中止させていただき、次の世代への橋渡しの思いを込めて記念誌の発行をもって記念事業とさせていただくこととしました。

この記念誌では、平成12年度(2000年度)までの出来事、行事については、30年誌及び50年誌で紹介されていることから、平成13年度(2001年度)以降の当協会の主たる出来事、行事並びに各加盟団体からの寄稿を掲載させていただきました。

この20年間においては江別市民や江別に縁のあるアスリートが国際大会の舞台で好成績を挙げました。創立80年、90年に向けて更に多くのアスリートが大活躍していただくことを祈念しております。

●平成13年度(2001年度)

- 5月 ・副会長 中川正志氏 石体協表彰受賞。
- 6月 ・副会長 池田春男氏 北海道体育協会表彰受賞。
- 8月 ・江別中央中男子バレーボール部 全国中学校体育大会 優勝。
・第24回全日本大学軟式野球選手権大会。
- 9月 ・江別ミニバレー協会設立10周年記念式典。
- 11月 ・江別市スポーツ少年団創立20周年記念式典。
- 3月 ・加盟団体長交流会。

●平成14年度(2002年度)

- 4月 ・江別ボウリング協会加盟。
- 6月 ・江別新体操協会加盟。
・副会長 服部實氏、江別中央中男子バレーボール部 北海道体育協会表彰受

賞。

- 7月 ・会長 池永和親氏 勲五等双光旭日章受章祝賀会。
 - 8月 ・江別剣道連盟創立 50 周年記念式典。
・元江別アニマルズ J S C 全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 優勝。
 - 10月 ・江別卓球連盟創立 40 周年記念祝賀会。
 - 11月 ・(財) 江別市スポーツ振興財団設立 10 周年記念祝賀会。
・江別パークゴルフ協会 10 周年記念式典。
 - 3月 ・加盟団体長交流会。
- 平成 15 年度 (2003 年度)
- 6月 ・日本空手協会江別支部 全国空手道選手権大会 団体形の部 優勝。
 - 7月 ・第 51 回東日本ソフトテニス選手権大会。
 - 8月 ・全日本 9 人制バレーボール実業団男子選手権大会。
・全国中学校水泳競技大会。
 - 10月 ・北風沙織選手 静岡国体 陸上 100m 優勝。ジュニア選手権、高校総体と
で 3 冠達成。
・元江別アニマルズ J S C 北海道スポーツ少年団特別表彰受賞。
 - 11月 ・顧問 高間専造氏、会長 池永和親氏、副会長 中川正志氏 石体協創立 30
周年記念表彰受賞。
・江別拳法協会を江別少林寺拳法協会と改称。
 - 2月 ・加盟団体長交流会。
- 平成 16 年度 (2004 年度)
- 6月 ・副会長 今井利秀氏、北風沙織選手 北海道体育協会表彰受賞。
 - 9月 ・江別市制 50 周年記念式典挙行。会長 池永和親氏 市政功績者表彰受賞。
 - 2月 ・加盟団体長交流会。
- 平成 17 年度 (2005 年度)
- 4月 ・顧問 久美屋清一氏 旭日単光章受章。
 - 7月 ・日本空手協会江別支部 全国空手道選手権大会 団体形の部 優勝。
 - 2月 ・江別市在住 岡部孝信選手 トリノオリンピック ジャンプ競技出場。
・加盟団体長交流会。
 - 3月 ・江別中央ジュニアバレーボール J S C (ガッツ) 全国スポーツ少年団バレー
ボール交流大会 優勝。
- 平成 18 年度 (2006 年度)
- 4月 ・指定管理者制度スタート。
 - 6月 ・江別中央ジュニアバレーボール J S C 北海道体育協会表彰、北海道スポー
ツ少年団特別表彰受賞 (10 月)。
・米沢照二選手、保木慎吾選手 第 41 回 BPAJ 全国ボウリング競技大会一般男
子団体 優勝。
 - 7月 ・日本空手協会江別支部 全国空手道選手権大会 団体形の部 優勝。
 - 8月 ・ポカリスエット・ジュニアスポーツセミナー開催 特別講演 荻原健司 氏。
 - 2月 ・岡部孝信選手 ノルディックスキー世界選手権札幌大会 ジャンプ団体 銅
メダル。
 - 3月 ・加盟団体長交流会。

●平成19年度（2007年度）

- 6月 ・副理事長 工藤旻氏 北海道体育協会表彰受賞。
- 7月 ・日本空手協会江別支部 全国空手道選手権大会 団体形の部 優勝(3連覇)。
- 2月 ・江別空手道連盟創立30周年記念祝賀会。
・加盟団体長交流会。

●平成20年度（2008年度）

- 9月 ・顧問 高間専造氏 旭日小綬章受章祝賀会。
- 12月 ・公益法人制度改革関連3法施行。
- 2月 ・加盟団体長交流会。
- 3月 ・岡部孝信選手 スキージャンプワールドカップ 優勝。最年長優勝記録を更新。

●平成21年度（2009年度）

- 7月 ・江別バスケットボール協会創立50周年記念式典。
- 9月 ・全国健康福祉祭「ねんりんピック北海道・札幌2009」将棋交流大会。
- 10月 ・江別テニス協会創立30周年記念式典。
- 11月 ・顧問 今井利秀氏 石体協表彰受賞。
- 1月 ・前江別市スポーツ少年団本部長 佐古利男氏 文部科学大臣表彰 生涯スポーツ功労者、江別市政功労者表彰 受賞祝賀会。
- 2月 ・加盟団体長交流会。
・岡部孝信選手、北翔大学 村田ありさ選手 バンクーバーオリンピック出場。

●平成22年度（2010年度）

- 4月 ・江別市体育協会創立60周年を迎える。
- 7月 ・加盟団体交流会。
- 8月 ・江別弓道連盟創立50周年記念 第10回江別市長杯争奪弓道大会。
- 10月 ・江別市在住 鈴木章 北大名誉教授 ノーベル化学賞受賞(H23/2 江別市特別栄誉賞贈呈)。
- 11月 ・日本空手協会江別支部創立30周年記念及び野幌空手道スポーツ少年団 文部科学大臣表彰受賞祝賀会。
- 12月 ・村上僚選手 第3回世界ジュニア武術選手権大会 24式太極拳第1位 32式太極拳第1位。

●平成23年度（2011年度）

- 4月 ・東日本大震災義援金募金活動実施。
- 5月 ・北風沙織選手 4×100mリレー 日本新記録更新 43秒39。
- 6月 ・江別ボウリング協会設立10周年記念大会。
・副会長 中川正志氏 北海道体育協会表彰受賞。
- 7月 ・東日本大震災被災者(江別市一時避難者) 野球観戦招待。
・加盟団体交流会。
- 8月 ・村上僚選手 第6回アジアジュニア武術選手権大会 総合太極拳第2位、42式太極拳第3位。
- 10月 ・江別市スポーツ少年団創立30周年記念第23回江別市スポーツ少年団交歓会。

- 12月 ・江別ミニバレー協会設立 20 周年記念祝賀会。
- 3月 ・村上僚選手 文科省大臣表彰受賞 第3回世界ジュニア武術選手権大会成績。

●平成24年度（2012年度）

- 5月 ・第31回ジュニア第30回マスターズ全日本パワーリフティング選手権大会。
- 6月 ・(財)江別市スポーツ振興財団設立 20 周年記念感謝状贈呈式
・会長 嶋倉昭氏 北海道体育協会表彰「堂垣内尚弘記念賞」受賞。
・村上僚選手 北海道体育協会表彰受賞 第6回アジアジュニア武術選手権大会成績。
- 7月 ・加盟団体交流会「嶋倉会長の受賞をお祝いする会」。
- 8月 ・江別市出身 陸上十種競技 右代啓祐選手 ロンドンオリンピック出場。この種目日本選手では、1964年の東京オリンピック以来48年ぶりの出場。
- 10月 ・江別卓球連盟創立 50 周年記念祝賀会。
- 11月 ・江別剣道連盟創立 70 周年記念祝賀会。
- 12月 ・江別バドミントン協会創立 50 周年記念祝賀会。

●平成25年度（2013年度）

- 4月 ・財団法人江別市スポーツ振興財団が一般財団法人江別市スポーツ振興財団へ移行。
- 6月 ・副理事長 森孝一氏 北海道体育協会表彰受賞。
- 7月 ・加盟団体交流会。
- 8月 ・土佐市・江別市友好都市提携 35 周年記念式典・祝賀会。
- 9月 ・第41回全日本社会人ソフトテニス選手権大会。
- 11月 ・右代啓祐選手を囲む会。
・顧問 今井利秀氏 石体協創立 40 周年記念式典 功労者表彰。
・江別市出身 大川智矢選手 世界武術選手権 剣術 金、槍術 銀。
- 3月 ・とわの森三愛高校女子ソフトボール部 全国選抜大会優勝。

●平成26年度（2014年度）

- 6月 ・顧問 今井利秀氏 ご逝去。
・右代啓祐選手 陸上10種競技日本新記録 8308点。
・とわの森三愛高校女子ソフトボール部 北海道体育協会表彰受賞。
- 7月 ・加盟団体交流会。
・右代啓祐選手後援会設立総会・アジア競技大会出場壮行会。
- 9月 ・右代啓祐選手 仁川（韓国）アジア競技大会金メダル。
- 10月 ・江別市制施行 60 周年記念式典。
- 11月 ・右代啓祐選手 江別市民栄誉賞受賞。

●平成27年度（2015年度）

- 6月 ・理事長 金内晴夫氏 北海道体育協会表彰受賞。右代啓祐選手 南部忠平記念賞受賞。
- 7月 ・顧問 角谷正宏氏 ご逝去。
・加盟団体交流会。
- 8月 ・蝦名冬馬選手 第8回アジアジュニア武術選手権大会 太極剣 金メダル、太極拳 銀メダル。

●平成28年度（2016年度）

- 5月 ・副会長 田原藤太郎氏 石体協表彰受賞。
- 6月 ・理事 中山喜美雄氏、蝦名冬馬選手 北海道体育協会表彰受賞。
- 7月 ・右代啓祐選手 リオデジャネイロオリンピック日本選手団旗手に選出。
・加盟団体交流会。
- 9月 ・蝦名冬馬選手 第6回世界ジュニア武術選手権大会 太極剣、太極拳 銀メダル。
・江別スキー連盟創立40周年記念式典。

●平成29年度（2017年度）

- 6月 ・理事 出口徹文氏、蝦名冬馬選手 北海道体育協会表彰受賞。
- 7月 ・大久保ひかり選手 第26回東アジアホープス卓球大会 団体1位、個人3位。
・加盟団体交流会。
- 3月 ・顧問 池永和親氏 ご逝去。
・稲葉里奈選手 第15回全日本スノーボード技術選手権アルペンスタイル女子 総合優勝。平成25年3月の第10回同大会での初優勝から6期連続優勝達成。

●平成30年度（2018年度）

- 6月 ・武術太極拳 蝦名冬馬選手、鎌田慎ノ介選手、卓球 大久保ひかり選手 北海道体育協会表彰受賞。
- 7月 ・加盟団体交流会。
- 8月 ・右代啓祐選手 ジャカルタ（インドネシア）アジア競技大会 金メダル 2連覇。立命館慶祥高校出身 小池祐貴選手 200m 金メダル。
- 10月 ・顧問 池田春男氏 ご逝去。
- 11月 ・特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本 北海道設立20周年祝賀会。
- 12月 ・顧問 田原藤太郎氏 ご逝去。

●令和元年度（2019年度）

- 4月 ・右代啓祐選手 ドーハ（カタール）アジア陸上競技大会金メダル。
- 5月 ・顧問 高間専造氏 ご逝去。
- 6月 ・理事 木内俊次氏 北海道スポーツ協会表彰受賞。
・出口徹文選手 世界クラシックパワーリフティング準優勝（ベンチプレス日本記録達成）。
- 7月 ・加盟団体交流会。
- 8月 ・鎌田慎ノ介選手 第10回アジアジュニア武術選手権大会 槍術金メダル、剣術4位入賞、長拳6位入賞。
- 9月 ・ラグビーワールドカップ オーストラリア代表チーム ウェルカムセレモニー。
- 12月 ・顧問 服部實氏 ご逝去。
・新型コロナウイルス 中国武漢で発生 世界に蔓延。
- 3月 ・東京オリンピック・パラリンピック延期発表。

●令和2年度（2020年度）

- 4月
 - ・「江別市体育協会」から「江別市スポーツ協会」に名称変更。
 - ・創立70周年を迎える。
- 5月
 - ・第1回理事会、総会を書面表決により開催。
- 3月
 - ・江別ゲートボール協会退会

加盟団体のあゆみ

江別市陸上競技協会

設立 昭和24年4月 1日

加盟 昭和25年4月26日

《現 役 員》

顧 問	加藤 倬英
〃	三宅 久雄
会 長	小山 勇夫
副 会 長	最上 栄子
理 事 長	茶木 秀昭
副理事長	山西 裕子
理 事	伊藤 俊文
〃	石田 敬司
〃	浜崎 隆行
〃	野澤 隆志
〃	古山 順子
〃	鈴木 文子
監 事	古山 順子
〃	鈴木 文子

《活動の歩み》

昭和24年（1949）江別陸上競技連盟を結成。

昭和30年（1955）飛鳥山グラウンドが第三種公認取得。

昭和37年（1962）北海道陸上競技協会に加盟。

平成 9年（1997）道央陸上競技協会を石狩陸協と設立。

平成 9年（1997）江別市陸上競技協会に改名。

平成13年（2001）野幌運動公園の陸上競技場の整備について関係機関に陳情。

平成13年（2001）野幌運動公園の陸上競技場での記録公認大会が終了。

平成14年（2002）写真判定装置が設置された千歳市青葉陸上競技場で競技会を行なうことに総会で決まる。

平成17年（2005）野幌運動公園の陸上競技場の整備について関係機関へお願い。

平成20年（2008）野幌運動公園陸上競技場が日本陸連の公認からはずれる。（以後は練習グラウンド）

平成25年（2013）運動公園・北翔大学・江別陸協の三者でジュニア陸上クリニックを開催することを確認する。年間3～4回開催して、1回3時間。

平成26年（2014）江別・野幌マラソン大会を協力事業として実施。（次年度からは春と秋）

令和 2年（2020）コロナ渦で競技会・記録会は縮小して実施、ジュニア陸上クリニックは屋外でのみ実施。

《現 状》

- ・野幌運動公園陸上競技場が日本陸連の公認から外れてしまったので記録が公認されない為に正式の競技会は行っていない。（実施することが出来ない）
- ・競技会・記録会は千歳青葉の陸上競技場で行っているが、野幌からは小一時間かかるので早朝の出発をしている、特に競技役員は準備の為に5～6時に出かけている、その結果として競技選手はいるのに、協会役員のなり手がいない現状です。
- ・中学校の先生方は江別に住宅が有っても、人事異動で他の市町に勤務している人が多い。
- ・高校生は個々人で競技場に集合するので、近い（厚別／円山）という理由で札幌陸協に選手登録している現状です。

- ・協力行事として原始林クロスカントリー大会。(江別市スポーツ振興財団)
- ・江別・野幌マラソン大会。(ふるさと応援プロジェクト実行委員会)

《今後の展望》

- ・小学校の指導者が少ない為に北翔大学と中学校の先生方をお願いしているのが現状。
- ・中学生は「ジュニア陸上クリニック」を年間3～4回行っているが生徒、教師共々に継続を希望している。(降雪前・12月・2月・5月)
- ・1年間の総まとめとして10月の市民体育大会兼ジュニア4種競技を行っています。
- ・協会への加入者が減少して、会を維持していくのが難しくなって、今後は道央陸協に直接加入も考えなくてはならないと思われます。
- ・小学生の指導に当たって、指導者の不足の為にクラブを設立するも参加者が不足し、運動会シーズンだけは希望者が多いのですが、永続的には無理でした。保護者の送り迎えが必要である事と関係します。



2018年陸上クリニック



2019年陸上クリニック

江別バレーボール協会

設立 昭和23年6月

加盟 昭和25年4月

《現 役 員》

終身名誉会長	嶋倉 昭
顧問	小川 公人
〃	勝部 賢志
〃	後藤 俊
〃	増井 清一
〃	佐藤 健三
〃	三上 義博
〃	工藤 憲
〃	木葉 淳
〃	星 克明
参 与	原 利明
〃	笹岡 麻喜子
〃	松田 和子
〃	田村 孝次
会 長	後藤 一昭
副 会 長	西尾 章
〃	浦島 忠勝
理 事 長	渋谷 研一
副 理 事 長	山田 和弘
〃	永谷 稔
〃	阿部 徳樹
〃	阿部 由美子
競 技 部 長	齋藤 幸治
審 判 部 長	林 勉
指 導 普 及 部 長	元沢 陽介
強 化 部 長	中村 勝博
常 任 理 事	山崎 達也
〃	天野 保則
〃	曾我部 聡
〃	朽久保 康裕
〃	山保 義和
〃	藤岡 徹
〃	本間 章彦
〃	元木 悦子
〃	竹内 由紀子
〃	村上 仁哉
〃	加納 祥伸
〃	南部 展生
〃	村形 裕亮
監 事	小池 和意
〃	筒淵 聡枝子

《活動の歩み》

江別バレーボール協会は、戦後の混乱も落ち着きを取り戻しはじめた昭和23年（1948年）、バレーボールを愛好する有志が集まり江別にバレーボールの普及を図るため、協会の設立を目指したのがスタートで、令和2年（2020年）に72周年を迎えました。

草創期には、企業のサークル活動として北日本製紙、開発局機械工作所、北海鋼機などが活躍、昭和30年代に江別市役所がチームを結成し唯一今日まで活動しています。

当時は札幌協会傘下として協会活動を進めていましたが、昭和47年に青年センター、昭和53年に市民体育館がオープンしたのを機に、ワールドカップなどの国際大会、道内の各種大会を開催・主管して実績を積み重ね、昭和57年に札幌協会傘下から独立して単独協会となりました。

この間良き指導者を得て小中高、大学、社会人、ママさんの各カテゴリーで全道大会、全国大会の常連として活躍するチームを輩出。道内の先導的協会として今日に至っています。

その歴史の中で特筆すべき出来事は、江別市スポーツ協会が51年目を迎えた平成13年に中央中男子が全日本中学校選手権大会において優勝という快挙を成し遂げ、4年後の平成17年にも同大会で準優勝、現在までトップチームとして北海道の中学校バレーボール界を牽引しています。

小学生の活躍も目覚ましく、男子の中央ガッツは平成14年と17年のペプシカップ全日本小学生大会で第3位、全国スポーツ少年団交流大会では平成17年に準優勝、翌18年に優勝を果たしました。

《現況・今後の展望》

現在は、実業団 1、大学 6、高校 8、中学校 9、小学校 8、ママさん 7、合計 39 チームが登録。20 年前に比べ 8 チーム減少していますが、前記の全道規模大会での優勝チームのとおり引き続き各カテゴリーで全道のトップを維持しています。

一方で、9 人制の各種大会の最多優勝回数を更新してきた江別市役所男子チームは、平成 25 年度の実業団選手権優勝を最後に上位進出から遠ざかっており、捲土重来を期待するものです。

今年（令和 2 年）は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020 東京オリンピック・パラリンピックが一年延期となってしまったこと、バレーボールのみならず他の競技においても軒並み大会が中止となったり、部活動の自粛が求められたり、これまでの日常からスポーツが一時的に消えてしまった感があり、一日も早い活動再開が期待されています。

こうした厳しい状況下ではありますが、国内トップリーグの Vリーグ男子に北海道内からヴォレアス北海道とサフィール北海道の 2 チームが参入し、地域一体となった活動を繰り広げています。この両チームには江別出身の選手が複数在籍し活躍しています。

また、Vリーグ女子ではデンソーエアリービーズ（愛知県）が札幌市をサブホームタウンとして今年からホームゲームを開催するなど、身近でトップレベルの試合を観戦する機会が増え、更には今後江別の子供たちがトップチーム目指してバレーボールに取り組む環境がこれまで以上に整ってきていることから、当協会としては引き続き小中高大の一貫指導を継続しバレーボールの普及発展に微力を尽くしていきたいと考えています。



2018 年 12 月 江別・千歳・札幌地区高校新人戦



2020 年 10 月 いたう杯小学生バレーボール大会



2019 年 11 月 石狩管内中学校新人戦

江別卓球連盟

設立 昭和25年4月（愛好者団体として活動）

加盟 昭和25年4月26日

江別市スポーツ協会創立70周年誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げますとともに、関係者の皆様の長い間のご苦勞、ご努力に深甚なる敬意を表します。

《現 役 員》

顧問	佐古 利男
〃	吉川 敬造
会長	本吉 敏
副会長	高橋 正生
〃	川嶋 稔史
理事長	福士 登志緒
副理事長	高橋 孝也
事務局長	山口 聡
事務局次長	鈴木 正春
常任理事	高橋 登貴子
〃	村田 勝志
〃	清水 禎久
〃	佐々木 邦明
〃	西島 仁
〃	小松 信明
〃	北本 紀子
〃	福士 久美子
〃	樋口 恵美子
理事	大脇 邦興
〃	菅原 敏彦
〃	田崎 弥生
〃	金田 博
〃	田中 由美子
〃	本吉 淳
〃	玉井 和男
〃	広瀬 美香
〃	木滑 満
〃	清水 則子
〃	浅井 姫代
〃	嶋田 顕浩
〃	小川 昌代
〃	和田 昌子
〃	東京子
会監	鈴木 正春
計査	安田 敏昭
〃	笹川 幸八

《沿 革》

江別卓球連盟は、その前身として、昭和25年4月、市内の愛好家により活動団体が結成され、年に1～2度の大会を行っていましたが、組織を立ち上げるまでには至らなかったそうです。

その後、卓球競技の発展と組織の確立のため、江高卓球部顧問の小沢、道職員の政田、王子製袋の服部、市役所の吉川らが中心となり昭和37年5月、会長を当時の市議会議員小林一男にお願いして市内の事業所や学校などの賛同を得て、正式に卓球連盟の発足を見ています。

連盟の発足から、北海道卓球連盟札幌支部に所属する形で全国・全道大会の予選会に参加していましたが、全道大会への出場が容易でないこともあり、単独で出場権を得るべく支部認可を申請し、昭和42年5月、江別支部として認可されました。その後、昭和44年11月、公認審判員の資格を3名が取得し審判団がスタート、昭和47年4月、初の全道軟式選手権大会を青年センターで開催し、大会運営を行いました。

昭和47年5月に大麻卓球クラブ結成、昭和50年4月に野幌クラブ結成、これらに前後して江別、野幌、大麻各地区に三つの卓球スポーツ少年団（現在は野幌と大麻の二つ）が結成され、子どもたちの技術向上や健全育成の取組も始まりました。その後、市内で卓球クラブの結成が進み、現在、29団体、731名の加盟登録（令和元年度）があります。

《活動の歩み》

現在、1年間の卓球大会は、連盟主催大会（神田杯、総合選手権、ラージボール大会、少年少女卓球大会等）のほか、各種大会の江別予選会、市民大会、江別市長杯など、約20の大会等を開催・運営しており、中でも勤労者卓球大会は歴史が古く、令和

2年度で第60回目の開催となりました。毎月1回以上の大会運営となりますが、連盟役員の協力体制のもと大会運営を行っています。

このほか、全道大会の開催支部として、近年では北海道ホープス大会（平成25、28年）、北海道ラージボール大会（令和元年）を市民体育館で開催、大会運営をしています。



また、卓球連盟では、小中学生の技術向上とマナーの習得・向上を目指して、スポーツ協会の補助を活用しながら、卓球技術講習会を年2回開催しています。



指導育成部の取組で、道内の著名な指導者に講習を依頼し、小中学生の希望者が参加できる一般講習会と、カデット大会江別予選会のベスト8の選手を対象とした強化講習会を平成元年度から継続して実施しており、これまで全道小学生大会や全道ホープス・カデット大会等での入賞者、北海道代表として全国大会への出場者も多数輩出しています。多くの指導者の日頃の努力に心より敬意を表するとともに、この取組が一助になっているものと考えております。

《現 状》

現在の卓球連盟の登録数については、先に記載しましたが、登録団体は、江別卓球連盟に加盟する当別町と新篠津村を含めて、中学校9校、高校5校、大学4校、団体11（大麻卓球クラブ、野幌卓球クラブ、市役所、大麻スカイクラブ、卓正会、江卓クラブ、サンダーズ、江別ラージボールクラブ、卓友会、当別町卓球協会、新篠津村卓球連盟）の計29団体で、このほか少年団・児童センター・個人登録を合わせて計731名の加盟登録をいただいています。

この連盟への登録は、平成15年度以降は、毎年700名を超える登録（最大は平成17年度の815名）があり、特に中学生の登録が多い状況にあります。これは福原愛選手や苫小牧出身の丹羽孝希選手など、日本代表選手のオリンピックや世界選手権での活躍がテレビ中継され、卓球を始める小中学生が増加し、また、ルールが改正され紺や黒っぽい色だったユニフォームが、明るく華やかなものになったことも子どもたちを引き付ける要因になっているものと考えられます。

《今後の展望》

卓球は手軽で誰にでも取り組みやすく、また気候等にも影響されず、仲間づくりに最適なスポーツです。さらに最近では、脳を刺激するスポーツとして老化防止などのリハビリにも卓球が活用されています。このほか市内では、一般球より大きく、変化の少ない44ミリ球のラージボールも盛んになっています。

卓球の普及拡大、ジュニア層の育成強化については、継続した取組を進めていきますが、課題としては、役員・指導者ともに次世代への円滑な移行です。今の体制で実績を維持しつつ、若い力を取り込み、さらに発展・強化させ市民の健康、体力づくりに役立つことを願い、連盟役員一同協力して取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、スポーツ協会創立70周年のたゆまざる努力に感謝するとともに、今後益々のご発展と関係各位のご健勝を祈念し、寄稿のことばとします。

江別バスケットボール協会

設立 昭和34年 頃

加盟 昭和46年4月

《現 役 員》

会 長	源藤 均
副 会 長	村松 光男
〃	前田 優二
理 事 長	西田 昌平
事務局 長	濱崎 利彦
事務局 次長	佐野 祐之
事 務 局	菅原 敦子
〃	濱崎 松美
監 事	菅原 邦宏
〃	三澤 哲
競技委員 長	佐藤 卓也
競技副委員 長	中野 潤
競 技 委 員	若林 明
〃	長 徳将
〃	新田 雅樹
〃	竹本 真祐
〃	笹川 雄起
強化委員 長	三浦 洋
強化副委員 長	斉藤 雅美
強 化 委 員	古山 均
〃	岸本 郁哉
〃	高田 幸裕
〃	佐々木 陸
審判委員 長	中山 雅裕
審判副委員 長	鶴巻 慎也
審 判 委 員	北本 健二
〃	細田 諭
中 学 部 会	16名
ミニバス部会	6名

《活動の歩み》

会長 源藤 均

私が中学生から始めたバスケットボール。今は指導者として、毎日、バスケットにどっぷり浸る日々を送っています。

江別バスケットボール協会は、昭和34年に設立され、61年が経過しました。私は、前会長の池永和親先生の後を受けて、平成24年に会長となりましたが、この間、先生と名称のつく方々抜きでは今の協会は

なかったと思います。特に私が中学生時代から高校生まで間、当協会の会長だった倉島繁先生、成人時代にお世話になった池永和親先生、そして、中学時代の恩師であった内村邦臣先生抜きでは考えられません。

また、これまでの活動を振り返ると、色々な出来事がありましたが、今の江別のバスケットボールに大きな影響を及ぼした出来事があります。

当協会は、ミニバスの部（小学生）、ジュニアの部（中学生）、一般の部でそれぞれ活動をしているのですが、平成に入り、ミニバスの部で、江別バスケットボール少年団や野幌レッドブリックスが相次いで全国大会に出場するという好成績を残し、そこで活躍した多くの選手が、ジュニアの部（中学生）でも競技を続けることとなりました。

しかし、当時の中学校のバスケット環境は厳しいものでした。顧問の先生が指導と審判の二役をこなしている状況で、十分な指導が行き届かない現状だったのです。それを見た元々中学校の教員で、当時は市教育委員会に勤務していた内村先生から「これからはジュニア部会の強化が必須であるから、中体連大会に協会より審判派遣を実施せよ」との指令がありました。そこで、当協会の委員で日本公認審判の資格を持つ北本健二氏を中心に本格的に大会への審判派遣を始めました。

その効果はてき面で、市内の中学校で全道大会優勝、全国大会出場が続きました。また、中学校のみならず、高校や大学、実業団、Bリーグへと進んだ選手が、ステージを変えて活躍するという道ができたのです。

これまでの間、全国中学校大会やインターハイ（高校）、インカレ（大学）などの全国大会、そして日本リーグや天皇杯、プロリーグで、優勝チームの一員として活躍した江別出身者が多くいます。中にはアメリカのプロリーグに挑戦する選手も出てきました。

《現 状》

これまでの当協会は、江別をバスケのまちにすることを目標に日々活動してきましたが、改めて振り返ると、ミニバスからクラブチームまでの一貫した流れが出来つつあります。江別で育った者が、地元である江別でバスケを続けている者も多くいますし、新しい指導体系の中で江別に戻り、バスケを続けながら指導者として活躍している者も多数います。また、ここ数年では、市内の大学が躍進しており、市内に限らず、市外からも「江別でバスケがしたい」と思う選手が多くなってきていると感じています。

ここにきて、昔蒔いた種の芽が出てきました。一步一步『バスケのまち 江別』に近づいてきたのではないかと考えています。

《今後の展望》

全国大会やプロの舞台で江別出身選手が活躍し、アメリカへ留学するなど流れは今も脈々として続いています。

今後は、ミニバスから社会人のクラブチームだけではなく、マスターズやシニア（39歳以上／50歳以上／60歳以上）の 카테고리まで、年齢に関係なく、切れ目なくバスケボールを心から楽しめる環境を確立させると同時に、現在減少している女子の社会人チームの活性化も図っていきたいと考えています。

夢は、膨らむが、最終的には、江別にプロ球団を設立して、江別からNBAに挑戦できる選手を育成する組織を作ると同時に、バスケ専用アリーナの建設がされることも願っています。

夢を描かなければ現実にはならない、夢を追いかけていなければ未来はないと思うから、まずは夢を描くところから始めよう。

そして、近い将来、地元でバスケを続けている選手の2世、3世に、また、江別で熱心な指導を受けた選手に、NBAからお呼びがかかる日がきっと来ると信じて活動していこう。

引き続き、江別バスケボール協会として、大きな夢を描き、その夢を追いかけていきたいと思えます。



市内大会



石狩管内スポーツフェスタ2018
9大会連続優勝



H29Jr バスケボール教室講師
左から菅原洋介、木村将基、城宝匡史



H30Jr バスケボール教室
中央 講師 菅原洋介

江別野球連盟

設立 昭和24年5月20日

加盟 昭和25年4月26日

《現 役 員》

顧問	青田 安雄
参与	中村 敏雄
〃	伊藤 清
会長	鎌倉 猛
副会長	星 克明
理事長	和田 信一郎
副理事長	澤 克至
審判部長	伊藤 重次
審判副部長	高橋 浩
〃	田中 吉則
総務部長	眞鍋 慎治
総務副部長	加藤 孝和
常任理事	小山田 敏行
〃	東出 勉
〃	村上 達哉
〃	廣木 誠
〃	芝木 基博
理事	和田 正司
〃	山口 修
〃	藤本 祐樹
〃	平山 秀樹
〃	森 忠大
〃	飯田 進作
監査	関 周平
〃	河合 恵一

《浴 革》

—野球連盟の創立—

戦後の物資不足の時、スポーツがこれだけ発展するとは誰もが考えられなかった状況でした。

しかし、世相の安定と共に、昔から野球を愛し、競技していた方々が集まり、誰とすることなく野球と言うスポーツを再開したことは自然の流れだったのでしょう。

その後、当時の職域チームとして、王子製紙、江別町役場、土木機械工作所、北海道電力江別火力発電所が。クラブチームとして、北江クラブ、江別江陵、野幌富士、ライオン、レッドスター、コンドル、タイガース他、連盟が結成され組織的な大会が

開催されるまで、各チーム同士で試合日程や審判等を決めて試合を行っていたとのことです。

そのような中、野球が徐々に盛んになり、連盟結成の機運が高まり、町の精肉店を経営され町議会議員も務めておられた三浦光三氏を会長に迎え、江別野球連盟が昭和24年に創立されました。

—江別飛鳥山球場開き—

～昭和25年6月11日完成を見た町営飛鳥山球場のグラウンド開き野球大会は、4千人の観衆を集めて盛大に行われた。

球場は万国旗に飾られ花火を合図にブラスバンドの吹奏でボーイスカウトを先導に入場式が行なわれ、球場建設の功労者に、古田島町長より表彰状、道新本社および岩田合名会社より記念品の贈呈があったのち後藤助役の始球式で参加チームの試合が展開され各優勝チームに道新本社より商品が贈られた。(昭和25年6月13日北海道新聞記事より)～

以上の記事から、当時の飛鳥山公園野球場が当時の江別の方々にどれだけ歓迎され、そして待ち焦がれられていたかが読み取れます。

飛鳥山球場は、現在でも野球を愛する江別市民のメイン球場となっており、近隣では珍しく独立型のブルペンを備える人気の高い球場です。

一方で、近年の軟式球の変遷やバットの高性能化、選手の打力の向上等により打球が遠く飛ぶようになり、外野及びファウルグラウンドフェンスのラバー化が待ち望まれます。

また、江別市内には飛鳥山公園野球場のほかに両翼とスタンドを揃えた球場は道立の野幌総合運動公園の第一・第二野球場しかなく、硬式野球を行う事ができる球場も江別市として保有していないことも、引き続きの課題となります。

《活動の歩み》

—登録チームの減少—

平成 14 年度には 30 を超える一般チームが連盟登録し、切磋琢磨して活動していたところですが、野球人口の低下と合わせて不況等による企業チームの減少が進み、令和元年度には 14 チームの登録にとどまりました。

この間、当連盟が所属する北海道軟式野球連盟（全日本軟式野球連盟）による大会以外に、札幌市内の球場にて私設リーグなども隆盛し、連盟登録チームが減少していることは他管内の連盟も同様であり、開催手段が多様化されていることも登録チーム減少の理由の一つと考えています。

—連盟大会の実施—

現在、江別野球連盟で開催している大会は、北海道軟式野球連盟の石狩支部による一般チーム 7 大会（天皇賜杯、国民体育大会、北海道知事杯、高松宮賜杯一部・二部、東日本大会一部・二部）・マスターズ 1 大会・中学生 2 大会・小学生 1 大会と、当連盟主催の市内大会となっています。

江別市スポーツ協会からは、飛鳥山公園野球場を当連盟が主催する大会に優先的に日程調整をいただいておりますが、市で保有する球場が当該球場しかなく、連盟支部大会の確保により、当連盟主催の市内大会の開催が 9 月以降しか実施できないという悩みもあります。

多くのチームに野球を楽しんでもらえるよう、多様な大会運営に今後も努力していきたいと考えています。

—天皇賜杯全国大会の開催—

平成 28 年には、天皇賜杯の全国大会を当連盟含む石狩支部にて開催し、飛鳥山公園野球場も全国大会の会場として運営を行いました。

当連盟からは、JA 道央野球部が参加し、全国の強豪と互角に渡り合う活躍を見せてくれました。

《今後の展望》

前述のとおり、野球連盟に登録して活動する一般チームが減少していることと、当連盟にて運営できる球場が飛鳥山公園野球

場しかないことは、ある意味、かみ合っている状態にあります。

現在登録していただいているチームを減らさずに、出来る限り多くの選手にプレーしてもらい、今後は重要な取組みになると考えています。

その中で、平成 30 年度に中学生が使用する規格球が M 号となり、一般と中学生が同じ規格球を使用することになったため、令和元年度からはエキシビジョンとして、中学生の選抜チームと一般登録の連合チームとの交流・教育試合を実施しています。

これからの江別を担う青少年の育成と、現在活動しているチーム・選手の活動の場の確保と競技力の向上、今まで江別の野球を支えてきたいただいた方への感謝をモットーに、今後も江別の野球熱を保つための活動をしてまいります。



H30 野球教室



R2 中学生・一般 交流戦

江別テニス協会

設立 昭和54年 1月27日

加盟 昭和54年12月18日

《現 役 員》

会 長	佐々木 勝也
理事長	下田 直樹
理 事	鶴羽 曜子
〃	工藤 ゆかり
〃	池田 順子
〃	菅原 あゆみ
〃	佐藤 晴彦
〃	前田 和寛
〃	宇田 康平
〃	松尾 裕介
〃	池田 隆幸
〃	水島 久美
〃	中山 公美子
〃	岡 裕貴
〃	鷺田 真澄
〃	西村 勝
〃	滝 浩大
〃	鳴海 瑚阿
〃	高橋 智
〃	目黒 千咲
監 事	小西 和保
〃	杉本 孝子

《活動の歩み》

協会主催の大会は、個人戦としては春の「会長杯テニス大会」を皮切りに、「江別選手権大会シングルス」・「江別選手権大会ダブルス」・「江別市民大会」・「ミックスダブルス大会」を、団体戦としては「ベテラン4人制団体戦」・「加盟団体戦」を野幌総合運動公園にて開催しており、冬期は1大会のみではありますが「江別室内選手権大会」を江別市民体育館にて毎年開催しています。

特に、団体戦は仲間とチームを組んで戦うのが人気のようで、毎年申し込み多数のため抽選にて参加チームを決めている盛況ぶりです。

ここ10年の年間参加人数は、雨天中止

の場合もありますが、毎年約750名前後で推移しております。が、10年以上前は、約950名が参加しておりました。

大会を行うにあたり、各大会の1週間前に理事出席のもとドロー会議を行い当日の組み合わせや運営方法を決定していますが、当日の運営は各加盟団体の当番制にて行っています。

どの団体も積極的に運営について関わっていただき、人数が少ないクラブの場合には複数のクラブとの共同運営の場合もありますが、積極的に協力して運営を行っていただき特にトラブルも無く行われています。

その他親睦大会として、近隣4都市による「4都市親睦テニス大会」を年に1度持ち回りで開催し、勝負はもちろんですが各都市の情報交換も行われ、長く続いている大会です。

平成21年には、協会設立30周年記念式典をコミュニティセンターにて100名の会員の参加のもと盛大に執り行い、また平成30年には、40周年記念親睦テニス大会を行い、100名以上の方が集まり普段組まない方ともペアを組んだり、豪華抽選会を行ったりと親睦を深めておりました。

また、北海道都市対抗テニス大会では、平成9年に1部8都市の仲間入りを果たし、1部最下位＝2部転落の恐怖に耐えながらも、今までの最高位は3位を記録しました。が、優勝・準優勝都市に与えられる、全国都市対抗には未だ出場出来ておりません。

全国出場を合言葉に、代表選手はレベルアップに励んでおります。

この1部在籍も23年となりましたが、1部から2部転落を味わっていない都市は、札幌市と江別市の2都市だけなのです。選

手達のちょっとした自慢となっています。

《現 状》

現在の加盟団体数は12団体、会員数は330名となっています。ここ数年、高齢化を理由に長く加盟いただいた団体が解散・脱退となっています。さらに今年は新型コロナウイルスの影響が大きいと思われませんが特に会員登録数が少なく、20年前に比べると8団体の減、会員数はほぼ半減となってしまいました。

そのような状況から、協会の収支を鑑み平成30年に会費の値上げを行った次第です。

しかし、主催大会の参加数については、協会員以外の参加も認めていることで人数・収益については、微減で推移しております。

やはり、野幌運動公園のコートを使用させていただいているおかげで、大人数の受け入れが可能なため、色々な相手と対戦ができるのが魅力の一つとなり、協会員以外の参加者が増えているように思えます

《今後の展望》

高齢化に伴い会員数が減ってきているのが一番の悩みですが、残念ながらこれといった特効薬もなく、とりあえずは主催大会を少しずつ見直しながら、その時の会員のニーズに合ったものを提供できるように、要望などを踏まえて修正できるものは修正していきたいと思っています。

何とか、若年層を含む新たな入会につながるような何かを探りながら・・・。



2012 北海道都市対抗テニス大会



2015 石狩管内スポーツフェスタ



2017 4都市親睦テニス大会



2019 北海道都市対抗テニス大会

江別水泳協会

設立 昭和45年6月 3日

加盟 昭和45年6月18日

《現 役 員》

顧問	問	和田	義明
会長	長	川村	恒宏
副会長	長	里深	伸司
〃		安保	美幸
理事長	長	阿部	稲茂之
総務委員長		青木	夕美
競技委員長		北山	郁実
競技力向上委員長		佐藤	英昭
普及・指導委員長		正岡	くるみ
監事		谷岡	拓
〃		山本	幸秀

《活動のあゆみ》

江別水泳協会は、昭和45年(1970)6月3日、江別市中央公民館(現・郷土資料館)において工藤 祐三氏が発起人代表となり、井戸 久氏、大郷 正裕氏、吉田 功氏、池田 春男氏等が発起人となって江別水泳連盟として設立しました。

会長に横田 勝弥氏、副会長井戸 久氏、馬淵 良作氏、理事長工藤 祐三氏を選出して会員21名で活動が始まりました。

《現 状》

世界スポーツ界の頂点である「2020 東京五輪を狙う」甲斐 耕輔(26歳)は、大麻高校から山梨学院大学に進学し卒業後は社会人(ルスツリゾート)スイマーとして活躍しています。

練習方法は独特で限られた時間を有効に使ってトレーニングに励んでおり、現在、競

泳男子 100m 自由形の北海道新記録(49 秒45)の保持者でもあります。

2021年4月3日から行われる五輪代表選考会を兼ねる日本選手権には自己記録を突破して、48秒台を出すことができれば五輪出場も夢ではありません。

協会設立50周年の節目に五輪に競泳から挑戦できる選手が江別から出現したことは、競技団体として誇りであります。

江別市教育委員会で時代を担う青少年がスポーツの分野で活躍した児童・生徒を表彰する制度があり、「スポーツ賞及び奨励賞」にて全道・全国大会で入賞した下記選手が受賞しました。

平成25年 中島 稔貴(野幌中3年)
全道中男子50m自由形 第1位

平成26年 岸上慶次郎(大麻東小6年)
全国JOC夏季男子100mバタフライ(11・12歳) 第3位

平成27年 アツシャー 横山舞里奈(江陽中3年)
全道中女子200m自由形 第1位

平成28年 巴 優花(いずみ野小6年)
全道JOC夏季女子50mバタフライ(11・12歳)第1位

平成29年 福井小遥(上江小5年)
全道JOC夏季女子50mバタフライ(10歳以下)第1位

近年、江別出身のスイマーが全道大会はもちろん、全国大会で入賞を果たすなど確実に実力をつけています。

これは本人の努力と、JSS 江別の阿部 稲茂之コーチ(現理事長)をはじめ各団体指導者の情熱と指導力の結果だと思えます。

又、北海道水泳連盟理事で中体連を統括する安保 美幸(現副会長)の競技運営並びに競技力向上によるところも大きいと考えます。

《今後の展望》

1972 年(昭和 47)江別市青年センターがオープンしてから 48 年が経過、施設の老朽化が著しく活動に支障をきたすことがあります。

2015 年(平成 27)に青年センター各利用団体からの意見を取りまとめ、江別市体育協会あてに「江別市温水プール建設の要望書」提出いたしました。

現在、江別市では公共施設長寿命計画(案)の中で建て替えに向けて検討中とのことですが、1 日も早く建設されることを熱望いたします。

2023 年(令和 5)には北海道立野幌総合運動公園において、全国高校総体(競泳・飛び込み競技)の開催が決定して準備を進めています。

地元で開催される全国大会にぜひ地元選手を参加させたいと念願しており、今後の選手強化に力を注ぎたいと思えます。

北海道立野幌総合運動公園プールは北海道を代表するプールであり、全国規模の大会と合宿誘致に向けて、関係諸団体並びに北海道水泳連盟、日本水泳連盟とのご指導・連携・協力を進めながら事業を展開していきたいと考えております。



第 35 回北海道ハンディキャップ水泳大会 青年センター



水球日本代表チーム女子野幌合宿 野幌総合運動公園



第 50 回江別市民水泳競技大会 青年センター

江別弓道連盟

設立 昭和35年8月

加盟 昭和35年8月

《現 役 員》

名誉会長	山崎 良明
相談役	藤本 敏男
会長	印牧 義記
副会長	石山 貴久
〃	松井 幸彦
総務部長	竹山 紀子
幹事	野呂 洋至子
〃	村上 由紀子
〃	大槻 典子
〃	安藤 宏
〃	伊藤 環
〃	大倉 奈穂子
〃	三國 育恵
事業部長	石山 貴久
幹事	小林 諭
〃	和田 美和
〃	渡邊 博江
〃	尾崎 美香
〃	赤杉 政則
〃	松井 幸彦
〃	手嶋 珠美
指導部長	井上 とし子
幹事	小林 洋子
〃	岡村 伊通子
〃	神田 巳重子
〃	石山 貴久
〃	窪田 こずえ
〃	池野 雅哉
監査	天野 博美
〃	山本 明実

《活動の歩み》

江別弓道連盟の設立は昭和35年8月です。

当時は道場がなく、稽古は河川敷や札幌の道場を使用するなど不便なものでした。

市当局に様々な陳情を行って昭和53年10月に待望の弓道場が江別市民体育館構内に新設されました。会員にとって待望の道場でありこの上ない喜びであり、活気に

溢れて稽古に訪れる人が多く待ち時間あるほど盛況でした。

(江別市長杯争奪弓道大会の創設)

弓道発展のため、江別市長杯の創設を陳情し平成13年に第1回江別市長杯争奪弓道大会が開催され、一般会員と一緒に江別市の大学生・高校生が大勢参加しています。

また、平成16年は「江別市50周年冠事業」としての取り組みがなされ「市制施行50周年記念第4回江別市長杯争奪弓道大会」として開催されました。

(石狩管内スポーツフェスタ弓道競技の開催)

「石狩管内体育大会弓道競技」は平成13年度から「石狩管内スポーツフェスタ弓道競技」と改め6市町村持ち回りで開催されています。一時地方自治体の財政圧縮に伴う運営困難から一時存続の危機になりましたが各連盟の努力により存続開催されています。平成14年度、平成21年度、平成27年度は当連盟が担当しています。

(弓道場の安全管理対策)

近郊にある既存の弓道場の安全管理対策を参考にして市当局に継続的に要望書を提出して平成15年に矢道全体の防矢ネットが設置されました。

平成30年12月には会員が切望し、市当局に長年要望していた弓道場の射場が増築されました。入場・退場がスムーズになり練習効率も上がり、会員一同心新たに弓道の向上に励んでいます。

(組織運営体制の明確化)

平成10年頃から徐々に会員の増加が始まり100名を超える会員を擁する時代になり人的規模に対応した組織の見直しが必要となりました。平成14年の規約改定により会長のもとに総務部、事業部、指導部の三部を置き、全体的な組織運営の機能を明確にして効率化を図ることにしました。

(事業の取り組み)

江別弓道連盟は週2回(火曜日・木曜日)の「稽古日」、毎月実施する月例射会、会員

の審査に対応する講習会、江別市長杯争奪弓道大会、江別市民体育大会弓道技競、錦山天満宮奉納射会、錬成射会を主催・協賛し実施しています。さらに関係団体との協力活動として「札幌地区職域対抗弓道大会」を平成17年、平成25年、平成30年に主管として札幌弓道連盟の事業を支援しています。

弓道の普及活動として弓道愛好家・後継者を育てる趣旨から平成13年から隔年毎の弓道教室を開催し初心者の養成を行ない会員の増加を図っています。平成29年度末の修了者累計は205名となっています。

《現状と今後の展望》

当連盟は上部団体である札幌弓道連盟に所属して弓道普及活動や競技活動に積極的に参加しています。

令和2年5月末現在で一般会員62名（男性23名 女性39名）と団体会員として

酪農学園大学弓道部、大麻高校弓道部、江別高校弓道部、立命館慶祥高校弓道部が登録されています。

平成14年以降一般会員は70～80名で推移してきましたが最近は少子高齢化、社会状況の変化で仕事環境が厳しくなってきたり、男性会員が減少し、また会員の高齢化が進み引退されたりして会員が減少に転じています。今後は普及活動を一層強化し隔年毎に開催されていた初心者弓道教室を令和3年以降毎年開催に変更し会員の増加を図り組織を活性化する計画です。

初心者、体配・射技の向上を目指す会員に向けて週2回（火曜日・木曜日）の「稽古日」を設定し相互研鑽に励んでいます。また、日頃の修練の成果を披露することが出来る「審査」対応では上部団体である北海道中央地区弓道連盟、札幌弓道連盟が主催する「指導講習会」への会員の参加を後押しして「射法射技」・「体配」の向上、射品射格の向上目指します。

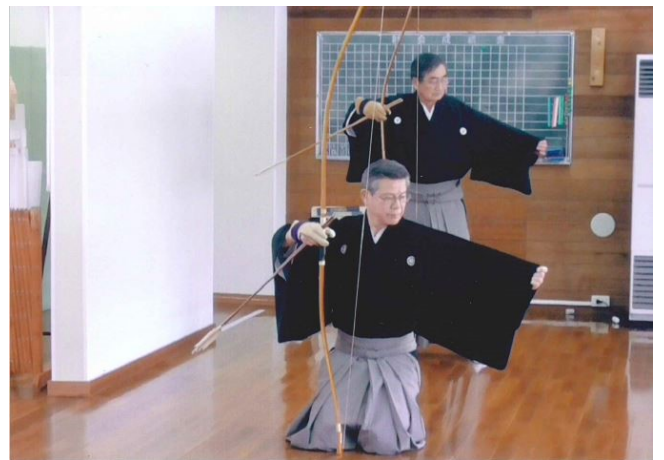
弓道は他の競技と違い相手は人ではなく物的であります。年齢を問わず、男女の制限がなく、自分の体力に応じた弓を使い一人でも練習する事が出来る生涯スポーツであります。

また、武道として「礼に始まり礼で終わる」と言われ日本古来の文化と伝統的な日本人の心を受け継ぐものとして評価され愛されています。

今後も弓道活動を通して会員の親睦と弓道の最高目標である「真・善・美」に少しでも近づけるようにお互いに切磋琢磨するとともに後継者の育成拡大と各種競技大会への積極的参加を目標に連盟は一層充実発展して行きたいと思っております。



平成27年石狩管内スポーツフェスタ恵庭大会



令和元年初射会称号先生による演武



令和2年納射会

江別バドミントン協会

設立 昭和37年6月

加盟 昭和37年6月

《現 役 員》

顧 問	中川 正志
〃	横山 真
〃	五十嵐 宣善
〃	蜜山 征雄
〃	野川 豊
〃	堀 文雄
会 長	星 克明
副 会 長	阿部 忠夫
〃	須田 寿美江
理 事 長	古川 孝行
副理事長	田中 弘幸
理 事	本間 良悦
〃	辻 直子
〃	山田 宗親
監 事	齋藤 恵子
〃	柏木 弘幸

《活動の歩み》

ロンドン五輪(2012年)で北海道出身の佐々木翔選手の活躍、女子ダブルスで藤井瑞希・垣岩令佳選手がメダル獲得したことでバドミントン競技の人気が高まり競技者が増えました。

また、協会設立50周年事業として平成24年11月の「2012 日本リーグ江別大会」の開催、平成29年12月の「S/Jリーグ2017 江別大会」開催は、日本を代表する選手のプレーを間近で観戦し肌で感じてもらったことは、バドミントン愛好者や市民への大きなアピールとなりました。

協会ではこれを機に従来から重点施策であった普及活動の更なる推進を図るため、市内の高校や大学と連携したジュニア層の育成強化、市民を対象にバドミントン講習会、バドミントン教室等の定期的開催の実施、更には生涯スポーツ推進のための交流大会等を実施してきました。

その結果、近年は各種大会において近隣からの参加者も徐々に増え、小・中・高生では全道大会、全国大会でも活躍する選手、

更には東京オリンピックでメダルの獲得が期待される選手(松本麻佑/北都銀行・とわの森三愛高校出)が輩出しました。

《現 状》

協会の主たる事業としては「主催大会の開催」「ジュニア育成強化」「競技の普及拡大」「生涯スポーツの推進」など、市民スポーツとしての確立を目指した活動を実施してきた。

1・主催大会開催事業

- ①「結成記念大会」「市民大会」「小学生・中学生選手権大会」「レディース大会」会長杯争奪大会」「市長杯レディース大会」「近隣地区高校選手権」「江別選手権」を開催(参加者は年間延べ2670名(h30年度))
- ②平成27年度からは近隣地区の小学生中学生の交流と親睦を目的に「近隣地区ジュニア交流大会」の開催(h30年度120名)、「近隣地区中学交流大会」を開催

2・ジュニア育成強化事業

- ①平成27年度から小学生と中学生のジュニア層の育成強化を目的に、とわの森三愛高校の協力により4月から10月までの7ヶ月間に35回程度(延べ1200名)の指導会を開催し、全道・全国大会へ輩出する選手を育成

3・競技の普及活動事業

- ①平成15年度のレディース連絡会設立を機に「レディースバドミントン講習会」を初心者を中心に毎月開催(平成30年度より「バドミントン講習会」に変更)
- ②毎年市内のバドミントンサークル・クラブとの交流と親睦を目的に、交流会を開催

4・生涯スポーツ推進事業

平成26年度から北海道協会、北翔大学生涯スポーツ学部と連携し、道央圏地域の「ト

リプラス」競技の普及指導活動を実施し、
「トリプル交流大会」を開催

《今後の展望》

近年の少子化と高齢化が進む中、スポーツが社会に与える影響やその効果が期待されています。また、バドミントンは男女を問わず幅広い世代で楽しめる生涯スポーツであり、北海道は日本協会への登録人数が全国2位という競技人口となっています。

協会としてはバドミントンの魅力を伝え、健康増進や体力の向上、更には青少年の健全な育成を通して身近な市民スポーツとして親しまれ「楽しみながら多くの世代が交流のできる活動」を目指しています。

しかしながら他の競技団体と同様、今後の協会活動を担う人材の育成が急務であり、今後の課題となっています。



2012 日本リーグ江別大会開会式



平成 28 年度ジュニア育成終了式

江別スキー連盟

設立 昭和51年9月14日

加盟 昭和52年4月13日

《現 役 員》

顧問	伊藤 豪
〃	堀井 常彰
〃	阿部 昌弘
会長	岩田 美佐男
副会長	木内 俊次
〃	中村 義広
理事長	熊谷 年司
副理事長	吉田 康弘
事務局長	松崎 次郎
事務局次長	赤澤 智彦
理事	有波 文昭
〃	伊藤 俊悦
〃	唐川 秀明
〃	小林 孝幸
〃	佐々木 正行
〃	澤 富靖
〃	林 忍
〃	牧野 幸彦
会計	太内 しほみ
監事	稲葉 信也
〃	岡田 牧子

《活動の歩み》

江別スキー連盟はスキーの普及発展を図り、市民の体位の向上を期することを目的として1976年（昭和51年）9月14日に創設された（現役員については別記のとおりである）。

創設当初は、市内の企業等団体会員を対象に、研修会や講習会を主な活動としていたが、徐々に一般市民、個人へと対象が変化し、SAJ公認検定員による検定会、また指導員の育成など、地域や当連盟内の地盤を固めつつ、会員一人ひとりが不断的努力を積み重ね、2016年（平成28年）には、創立40周年を迎えるに至った。



ジュニアスキーバッジテスト

《現 状》

1972年（昭和47年）冬季札幌オリンピックが開催され、経済がバブル期に差しかかった頃からは次第に情勢は変化し、近年では、スキー人口の減少が顕著であり、比例して当連盟内の会員数も減少して来ている。事由としては、季節を問わないスポーツに係る少年団の普及、多彩な室内ゲームの普及によるところが大きいとされているが、スキーは用具が高価であるうえに活動場所が制限され移動に苦慮するところも要因として考えられる。

組織の構成は、基礎スキー部会、競技スキー部会、歩くスキー部会で構成され、基礎スキー部会の中にスノーボード部が創設されている。会員数は、総勢で約250名程度と、ピーク時の半数程度に減少し、構成する指導者の高齢化も運営上の課題となっている。



スノーボード講習



レーシングの練習風景

そのような中で明るい話題として、競技スキー部で滑走経験を積んだ女子選手がスノーボードに転向し、全日本スノーボード技術選手権大会において6年連続で日本チャンピオンになる偉業を達成したことが挙げられる。このことは連盟内にも多大な名誉と誇り、大きな自信を与えてくれた。

教育長、スポーツ協会会長を来賓として御呼びし、盛大に祝賀会を開催したのは記憶に新しいところである。



スノーボード全日本6連覇の祝賀会

具体的な事業としては、一時期は減少傾向にあった小中高でのスキー学習も徐々に増え始め、それらに対する活動支援、歩くスキー会員については地元小学校の体育授業への支援、毎年好評を得ている冬休み期間中の小学生スキー教室、さらに競技者としてのジュニアの養成など、そうした幼少期から一般向けの講習会や、各種検定会等の開催により、昨シーズンは16事業で延2,000名程度の参加者が有った。一日の事業を終えた日には、指導員のスキルアップを目的に、北海道スキー連盟に輩出している技術員を講師として研修を行うなど、精力的に取り組んでいる。

《今後の展望》

2019年より流行し、未だ終息の気配が観られない「新型コロナウイルス感染症」が社会生活に大きな影響をもたらしているが、我々スキー連盟の身近なところでも、歩くスキーの会員が支援して来た「原始林クロスカントリースキー大会」の中止、プレ大会から支援してきた「2020年第7回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・北海道」の中止、さらに連盟事業も一部中止を余儀なくされるなどの影響が出ている。このような事象は当面は続いて行くものとして捉え、その都度いかにして対応すべきかを組織において十分に議論を交わし、最良の方策を見い出して行く必要がある。

終わりに、今後もさらにスポーツ協会との連携を密にすると共に、連盟創設当初の目的を忘れずに、市民の皆さんにスキースポーツと親しむ機会を設けられるよう活動して行きたい。



歩くスキー野幌森林公園内

江別市スポーツ少年団

設立 昭和49年4月1日 江別市スポーツ少年団連絡協議会

昭和56年4月1日 江別市スポーツ少年団に改称

加盟 昭和41年体育協会内少年団育成部として加盟

《現 役 員》

顧問	佐古 利男
〃	神田 猛
本部長	金内 晴夫
副本部長	小林 則幸
〃	横山 聡
本部員	白崎 武仁
〃	一刀 潤
〃	小野田 智子
〃	佐藤 英昭
〃	西島 仁
〃	中山 雅裕
〃	音部 憲夫
〃	村田 幹子
〃	武内 善彦
〃	阪 英明
〃	本間 章彦
〃	加賀 雅之
監事	笠羽 利憲
〃	合田 俊二
事務局長	中島 卓哉
事務局員	長尾 えり子
〃	田谷 寿紀
〃	岡部 真一
〃	桑原 奨
指導協会長	福士 志津男
〃 副会長	大郷 正裕
〃 〃	安田 敏昭

《活動のあゆみと現状》

○平成13年度：登録41団。団員1,415人

○令和2年度：登録42団。団員856人
少子化問題は、各団の運営・存続に大きな影響が見られます。

以下、例年行ってきた事業のうち、少年大会派遣事業の特筆事業を記します。

①全国スポーツ少年大会；全国を輪番制で

開催する大会に、ジュニアリーダー資格者を、ほぼ毎年派遣。平成29年度から中学・高校生が対象となりました。

②北海道スポーツ少年大会；リーダー研修の修了者が多数参加。小4～対象

③競技別交流大会：

○軟式野球交流大会；平成14年度元江別アニマルズが、全道優勝、更に全国大会で優勝。当時の伏見寅威主将は、平成24年ドラフト会議でオリックス・バファローズから3位指名、現在も活躍中。

○剣道交流大会；平成22年度江別市選抜チーム全道第3位。令和元年度江別東剣道の田中冨依(中3)が優勝し全国大会の切符を勝ち取るも、新型コロナウイルス感染拡大防止により大会中止。

○バレーボール交流大会；第2回より4年連続全国大会に出場した江別中央ジュニアバレー男子は、第2回準優勝、第3回優勝の快挙。また、第7回3位。同女子も第3・4・6・9・14回全国大会出場の常連チーム。堺ブレイザーズの山本智大は全日本チームのリベロとして活躍中。

④日独・日中スポーツ少年団交流

○平成12年度第27回日独スポーツ少年団同交流派遣；野幌卓球／林拓哉(高3)

○平成21年度第36回日独スポーツ少年団同時交流受入；ドイツ訪問団8名

江別市内にホームステイし毎日管内市町村に移動し交流。

○平成22年度日中青少年スポーツ団員交流派遣；野幌空手道6名、江別バスケット1名、指導者1名、本部事務局1名。

江蘇省にある名所・旧跡見学や、南京市体育運動学校で強化選手とスポーツ・文化交

流を通じ友好と親睦を深める。

○平成26年度第41回日独スポーツ少年団同時交流派遣；野幌空手道／杉本佳亮(大1)

○令和元年度第46回日独スポーツ少年団同時交流派遣；江別空手道／羽賀えみり(高1)

《今後の展望》

2020年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、スポーツ界においては、2020東京オリンピック・パラリンピックの延期をはじめ、様々な大会やイベント等が中止や延期、規模の縮小・無観客での開催になるなど、かつて経験のしたことのない大変な年でありました。

スポーツ少年団活動においても同様であり、江別市本部事業の多くが中止となり単位団では、日々の練習成果を発揮する大会などが軒並み中止となり、機会を奪われた子ども達だけでなく、保護者や指導者にとっても思いを残す年となりました。

ワクチン接種や治療薬が開発され、今までの生活を取り戻し、子どもたちが笑顔で練習や大会に参加できることが早期に望まれます。

さて、我々を取り巻く環境は、コロナ禍以前から少しずつ変わってきております。その一として、今までどの国も経験したことのない少子高齢化があげられるのではないのでしょうか。

スポーツ少年団では、少子化による団員数の減少により満足の行く活動が難しくな

っています。また少年団自体も減って来ております。指導者の高齢化による後継者不足も要因の一つと考えられます。

しかし、少年期の子どもたちがスポーツを通じて団体活動を体験し、年齢の違う仲間と触れ合うことは、必ずや子どもたちの成長の糧となるものであり、スポーツ少年団への地域社会からの期待は大きく、これからも変わるものではありません。

そこで、日本スポーツ少年団では、平成29年度日本体育協会公認スポーツ指導者制度の改定によりスタートコーチ資格を新設しました。このことにより、子どもたちを指導するコーチたちの質を向上させ、維持しそして次世代の指導者へとつなぐべく、スポーツ少年団の指導者が学び続けられる環境を整備し、スポーツ少年団指導者が全員有資格者となるため、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度の下で指導者養成が継続されています。

このように、常に子どもたちがスポーツを通して成長していく上で何が必要かを考え、その時代にあった指導方法や少年団のあり方について探し求めています。

江別市スポーツ少年団でも、子どもたちが安全で安心して楽しみながら友とふれあい、スポーツに取り組めるとともに、その保護者も積極的に関わり子ども達の成長を見守れるよう、皆様の期待に応えられるよう努めてまいります。今後も各スポーツ少年団のすべての参加者とともに“明るい未来”に向かって研鑽してまいります。



H21.8 日独同時交流 (受入)



R1.11 Jr リーダースクール

江別ソフトテニス連盟

設立 昭和 25 年 4 月以前（愛好者団体として）

加盟 昭和 25 年 4 月 26 日

《現 役 員》

顧 問	工藤 旻
〃	渡辺 孝二
会 長	村中 幸男
副 会 長	岩野 麗子
〃	菅原 和夫
理 事 長	記田 英明
副理事長	石元 雅人
〃	深見 豪
理 事	林 倫史（審判）
〃	氏原 千夏
〃	前田 チサ子
〃	小玉 俊也
〃	倉 亜由美
〃	柳瀬 信夫
〃	南義 正志（中学）
〃	村田 幹子（少年団）
監 事	武田 都紅子
〃	桜本 守

《活動の歩み》

平成 25 年 9 月全日本社会人ソフトテニス選手権を野幌総合運動公園、札幌円山庭球場で開催されました。野幌運動公園では一般男子 2 1 3 ペアー、成年男子 8 2 ペアーの試合が行われ、大会役員は江別連盟から 5 1 名が運営に協力しました。

平成 28 年 8 月全日本レディースソフトテニス個人戦大会を野幌運動公園、札幌円山、旭川花咲、千歳青葉の各コートで開催され、当連盟は野幌運動公園での 2 7 1 ペアーのうち 3 8 ペアーの大会運営を行いました。

平成 29 年、当連盟が長年要望していた飛鳥山公園コートの改修が行われ、グリーンサンドの同一コートに生まれ変わり、大会計画や運営もスムーズに行えるようになったことで「石狩管内スポーツフェスタ」も開催できるようになりました。

「石狩管内スポーツフェスタ」ですが、高齢化と会員数減少に伴い選手派遣が難しくなっています。主管市町村において

運営母体の連盟がないところもあり、当別・新篠津主管の年は江別で主管運営を行っています。

そのような各市町村の現状に沿うべく平成 27 年 4 月に千歳・恵庭・北広島・石狩・江別の連盟により種目を男子 3.5 ペアー・女子 3.5 ペアーの男女同一チーム団体戦に変更し、その年の江別主管大会から実施し現在に至っています。その後、令和元年に石狩市が出場を辞退、令和 2 年には当別町は使用できるコートが無くなったとのことなどで今後の開催が難しくなっています。

平成 30 年全日本スポーツマスターズ大会は胆振東部地震のため、令和 2 年東日本ソフトテニス選手権大会は新型コロナウイルスのため中止されました。

令和 2 年 7 月で当連盟は創立 7 0 周年を迎えましたので、その記念として飛鳥山公園テニスコートにアルミ製ベンチ 8 脚を寄贈しました。

《現 状》

現在連盟に加盟している団体は、大麻・江友・野幌・グリーン・球友の 5 団体。会員数は 88 名で 20 年前と比べ半減しました。連盟には登録していませんが小中学生は 182 名と同じく減少傾向で、これは全道・全国的な傾向です。

以前からソフトテニスのすそ野を広げるべく、少年団の活動への後押しを希望する中学校への技術的講師派遣、ジュニア審判員検定会の実施、市民体育大会を含め各種大会を開催しています。更にはジュニア育成事業として北海道ソフトテニス連盟普及委員会に講師派遣を依頼して技術講習会を毎年行っています。その結果近年では小中学生は全道大会で素晴らしい結果を納め、全国大会へとコマを進めています。

令和 2 年には例年通り 15 試合を計画していましたが、新型コロナウイルスの流行に

よる活動の制限により、レディース大会と春季加盟団体戦は中止し、制限が解除されてからは大会会場に消毒液を準備しながら試合を行いました。小中学生の大会は各校の学校管理責任者の意向を受けて制限の解除後も中止や延期をしました。小学生と中学1・2年生の市民大会も令和3年1月のインドア大会と兼ねて実施を計画することにしました。2月の全道シニア女子インドア選手権大会と3月の全道成年インドア選手権大会は、無観客で実施する予定です。

《今後の展望》

ソフトテニス人口の減少や高齢化が全道・全国・当連盟にもじわじわと影響を与えてきています。新たにソフトテニスを始めようとする小中学生の減少の中、すそ野の拡大が重要と考えて取り組んでいきます。一例として、高齢者の活動日を小学生の授業の場に提供、また一般のクラブが使用したロストボールを市内各中学校の部活動での使用のために贈呈等小さな事ですが取り組んでおります。

ソフトテニスは高齢化が進んでも高齢者も十分に楽しむことのできるスポーツなので、飛鳥山公園コートを拠点として、地域に点在するコートを利用し、市内各地域で多くの世代が元気に活動できるよう支援をしていきます。

冬期間は市内各体育館を利用した活動と、長年取り組んでいる運動公園アリーナでの月2回の交流大会をこれからも継続し、会員の技術の向上と交流及び健康増進を図りたいと思います。

当連盟は創立70周年を迎え、生涯スポーツとしてソフトテニスを多くの会員が今後も共に楽しく活動できるよう普及活動を進めていきます。



平成25年9月7日第41回全日本社会人ソフトテニス選手権大会開会式



2019年度石狩管内スポーツフェスタ出場選手（石狩市）

江別柔道連盟

設立 昭和24年4月 1日 (柔道同好会発足)

加盟 昭和25年4月26日

《現 役 員》

顧問	高梨 幸輔
会長	吉川 賢司
副会長	今野 昭男
〃	林 紀博(兼理事長)
副理事長	佐々木 辰雄
〃	十倉 宏
監査	福田 順二
〃	目黒 良一
常任理事	佐々木 昭一
〃	千葉 重信
〃	丸山 武彦
〃	奥山 忠由
〃	中ノ目 敏雄
理事	工藤 甚吉
〃	西山 肇
〃	内田 悟
〃	畑 孝
〃	阿部 洋
〃	原 大輔
〃	佐々木 祐美子
〃	小野田 智子
〃	江ノ上 高之

《活動の歩み》

平成21年4月 江別柔道連盟会長に吉川賢司が就任

以後、積極的に江別市での全道規模の大会を誘致し、大会運営を通じて連盟はもとより柔道スポーツ少年団もさらに活性化した。

特に第36回都市対抗大会、平成25年6月30日第66回東北北海道対抗大会などを市民体育館において開催、連盟会員及び少年団父母会の協力を得て、多くの観衆の声援を受け盛会裡に終わることが出来た。

また、昭和28年から江別神社祭典奉納柔道大会を行い、その後連盟の恒例行事として毎年開催され、春秋の2回実施している。

主な大会成績として、平成25年度、第2

5回全国高等学校柔道大会・北海道大会において禮堂加奈子が女子63kg級優勝、第41回北海道中学校柔道大会において荒木稜が男子90kg超級第3位、平成26年度、第9回講道館柔道「形」北海道競技会において「投の形2部」佐藤俊祐・小野田大安組優勝の成績をあげている。平成30年には、東京にて道友会「形」演技大会において、「投の形」嶋中理己杜・畠山久瑠海組優秀賞をあげている。

《現 状》

以前は柔道少年団が江別、角山、大麻、野幌の4地区にあったが、現在活動しているのが江別と大麻の2地区になったことは、残念である。柔道人口が減少しつつも、江別柔道スポーツ少年団、大麻柔道スポーツ少年団の2団体と市内各中高大学の柔道部が活躍している。現在行われている大会は次のとおりである。

- ・江別柔道連盟主催大会
 - 5月 江別神社春季祭典柔道大会
 - 9月 江別神社秋季祭典柔道大会
- 12月 市民体育大会柔道競技、市長杯争奪少年柔道大会
 - スポーツ少年団本部長旗争奪柔道大会
- 2月 ジュニアスポーツ育成事業柔道教室
- ・江別柔道スポーツ少年団主催
 - 3月 江別柔道少年団卒業記念大会
- ・大麻柔道スポーツ少年団主催
 - 9月 大麻神社秋季祭典柔道大会
- ・その他大会
 - 7月 マルちゃん杯少年柔道大会
 - 10月 都市対抗柔道大会
- ・各大会審判員派遣

《今後の展望》

柔道は講道館を創設した嘉納治五郎先生の言葉、「精力善用・自他共栄」にある。

日本古来の柔道はスポーツとして今や全世界に広がりオリンピック種目となって知らぬものがないほどに普及した。まことに喜ばしいことである。

しかし、柔道の本家である日本の柔道人口が減少していることも事実であり残念なことでもある。今後は特に若年世代の取り込みを促進し、連盟の活性化とともに青少年の育成を進めて行きたいと思う。



平成 24 年度全北海道ジュニア柔道体重別選手権大会



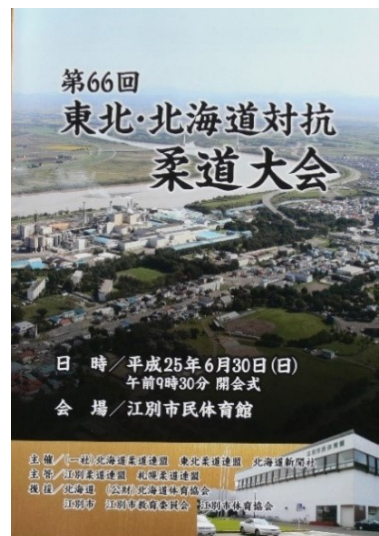
平成 24 年度全北海道ジュニア柔道体重別選手権大会



平成 24 年度全北海道ジュニア柔道体重別選手権大会



平成 29 年度ジュニア育成事業 形講習会



第 66 回東北・北海道対抗柔道大会

江別剣道連盟

設立 昭和28年4月

加盟 昭和28年4月

《現 役 員》

顧問	神田 猛
名誉会員	林 繁
〃	阿部 久男
参与	佐藤 甲仁
〃	小林 久光
〃	夏井 正美
〃	中山 喜美雄
会長	高井 雅一
副会長	関 正治
〃	谷江 篤
〃	渡部 丈司
〃	森林 章二
理事長	横山 聡
〃	入谷 修司
〃	畠山 博史
〃	熊坂 久美子
〃	天明屋 聡
〃	澤井 じゅん
〃	佐々 秀和
〃	守屋 彰
〃	柴田 宏樹
〃	高橋 周平
〃	田中 努
〃	合田 俊二
〃	阿部 真之
〃	福井 宗一郎
〃	太田 久雄
〃	一刀 潤
監事	松井 浩
〃	石坂 英文
事務局長	磯野 智宏 (会計)
事務局次長	高井 一矢
書記	畑村 圭郁

《浴 革》

江別の剣道は明治の開拓屯田兵に始まり、戦前は野幌剣道愛好会が活動の中心であった。剣道が全盛を極めた昭和初期、甲源一刀流の富田喜三郎教士の門下で免許皆伝の小塚栄四郎をはじめとした剣士が多数の剣道愛好家を育成し、年一度の町武道大会も

盛大に開催されていた。

第二次世界大戦後、江別での剣道の活動も大きな打撃を受けたが、有志が集まっては組織結成を徐々に進め、昭和27年には同志相寄り機熟せりとして江別剣友会が発足した。初代会長には、特に武道に情熱と理解があった日野本男が就任し、翌28年の北海道剣道連盟発足にあたり、江別剣友会も加盟、名称も江別剣道連盟と改めて現在の連盟の基盤が出来上がった。同年8月には、第4回江別市民体育大会に剣道の参加が認められ、会場となった第一中学校には少年を含む124名の選手が集い、盛大に競技が行われた。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で中止となってしまったが、市民体育大会や全江別剣道選手権大会には小学生から社会人まで市内の多くの選手が参加し熱戦を繰り広げてきた。

平成21年には第1回会長杯争奪高校生剣道大会を、翌22年からは小中学生でも会長杯争奪剣道大会を開催するようになり、市内における子どもたちの活躍と交流の場となっている。

平成24年には創立60周年事業として、各種大会や記念稽古会、記念祝賀会を盛大に開催し、連盟のさらなる発展を祈念した。

《現 況》

現在、会員数は96名（うち居合道部会8名）、市内には5少年団約100名の子どもたち、中学生・高校生・大学生の約90名余りが剣道を学んでいる。

連盟では、剣道大会・講習会の開催並びに後援、剣道に関する調査・研究・指導、級位の審査等の事業を行っている。年間事業としては、北海道団体優勝剣道大会、北海道剣道段別選手権大会や各種全国大会北海道予選会などの各種大会への選手派遣、江別市内においては、市民体育大会剣道競技、全江別剣道選手権大会、会長杯争奪剣道大会等を開催している。

青少年の育成においては市内5か所の少

年団、中学校等での稽古のほか、北海道少年剣道錬成大会（赤胴少年剣道錬成大会）や北海道中学生剣道錬成大会（砂川大会）等の全道大会に向けて、小中学生の錬成会を実施している。錬成会を経た江別選抜チームが、大会で上位入賞するなど、江別の小中学生の剣道レベルが着実に向上しており、全道の注目を集めている。また、稽古の成果を判定するための級位審査会を年2回実施するとともに、各種講習会を実施し、技術の向上を図っている。

毎月2回程度開催している剣道錬成会は、小中学生から大人までが剣を交え、各々の技術の向上だけでなく、会員同士の交流・親睦の場にもなっている。

近年、市内の剣道スポーツ少年団を単立っていったOB達の子や孫が新たに入団し、世代を超えた青少年の健全育成と剣道の発展に寄与しているところである。

《今後の展望》

江別剣道連盟発足から60年以上の歳月が経ち、大小さまざまな大会や稽古を通じて「交剣知愛」が実践されてきたところである。

全日本剣道連盟の統計では年間の初段登録者の3分の1が女性であり、七段・六段といった高段者における女性の比率も高まってきている。江別でも、剣道を再開する女性や、子どもの稽古に付き添った母親が剣道に興味を持ち、母子で稽古に通う姿も増えてきている。江別剣道連盟としても、女子剣道講習会の開催などを始めたところではあるが、今後も女性が剣道に興味を持ち、続けられるような環境づくりに努めていきたい。

また、少子高齢化が進む中、剣道人口も減少している。剣道の未来への継承のためには子どもたちの剣道人口拡大・普及が大きな課題となっている。武道の必修化により、剣道を通じて端正な礼法、他人を尊重し思いやる道徳心、技能や体力の向上、子どもたちの耐性や社会的態度を身につけるといった部分が着目されている。学校での授業等もきっかけとし、日本の伝統文化である剣道の良さをより多くの人々に知ってもらえるよう連盟として不断の努力を続け

ていかなければならない。

新型コロナウイルスの感染拡大は、対面で大きな気勢を発し、激しく打ち合う剣道には大きな逆風であった。感染予防のためのマスクを着用しながらの練習は苦しく、大勢の人が集まる大会は中止となってしまった。しかし、剣道を愛する人は大勢いる。コロナ禍においても感染防止に配慮し、安心して剣道に取り組めるような方法を剣道連盟として模索していかなければならない。



令和元年 北海道中学生剣道錬成大会女子団体3位



市民体育大会剣道競技



平成30年 北海道少年剣道錬成大会敢闘賞
(ベスト8)

江別サッカー協会

設立 昭和56年 2月14日

加盟 昭和56年 4月 1日

《現 役 員》

顧問	野村 義次	
〃	野呂 英行	
会長	高間 専逸	
副会長	加藤 敏昭	
〃	野村 尚志	
〃	福士 志津男	
〃	堀江 祐一	
理事長	佐藤 和彦	事務局長
副理事長	斉藤 尚樹	事務局次長
理事	佐藤 和英	〃
〃	中島 拓哉	〃
〃	平山 潤紀	〃
〃	本田 拓也	会計
〃	武内 善彦	
〃	細田 尚志	
〃	小倉 義浩	
〃	野村 稔	
〃	信平 強	
幹事	柴垣 文春	
〃	湯川 旭	

《活動の歩み》

昭和56年度の江別市体育協会加盟後から市民体育大会、平成6年度から創設された会長杯争奪サッカー大会において、小学生の部、中学生の部、高校・大学・社会人の部を開催してきました。

その当時は、小学生、中学生、高校・大学・社会人で活躍していた選手も今では、親となり子育てに奮闘、中にはお孫さんの遊び相手と年齢が変化してきて現役で活躍しており、競技人口の年齢の幅が広がっています。

また、お子さん、お孫さんもサッカー選手として活動しており、所属しているチームの指導者として後進の育成に取り組んでおります。

育成の効果としては、平成27年に開催された全国中学サッカー大会において江別中央中学校が全国ベスト8に進出（優勝校の青森山田中学校に惜敗）翌年も全国に出場）しました。

競技人口の年齢の幅が広がったことにより、各大会にシニア35歳以上の部、シニア45歳以上の部を設けて競技を行っております。

競技場も石狩川河川敷グラウンド・各中学校グラウンドから飛鳥山多目的広場に変更となりましたが、とりわけグラウンドが土から芝生に変更となったことから、選手のプレーにも変化が生じてきました。

サッカー競技といえば屋外のスポーツと思いがちですが、世界的にも屋内での競技が盛んに行われております。

平成7年から当協会においても、会長杯争奪室内サッカー大会、スポーツ少年団本部長旗争奪兼市長杯争奪室内サッカー大会を開催し、通年においてサッカー競技を行える環境となりました。

当協会の屋内での各大会は、2日間にわたり小学生・中学生・一般・シニア（35歳以上及び45歳以上）の部と全てのカテ

ゴリーが、一つの会場に参加して競技を行う大会となっています。

室内の大会においても、競技人口の年齢の幅が広がっております。

平成30年度のスポーツ少年団本部長旗争奪兼市長杯サッカー大会はシニア世代が多数参加した大会となりました、成績は、35歳以上の部は、7チームが参加し優勝チェリー、準優勝SFC、三位パパーサ。45歳以上の部も7チームが参加し優勝ZIZI、準優勝大麻FC、三位メモリーズ。

他にも、小学生・中学生・一般の総勢50チームが参加した大会でした。

《現 状》

令和元年度の当協会の主な事業として（令和2年度は、コロナ関連で事業が縮小、中止のため。）市民体育大会を6月・9月、会長杯を9月にカテゴリー別で開催、シニアカップを9月に開催。

室内サッカー大会は、12月にスポーツ少年団本部長旗争奪兼市長杯サッカー大会、2月に中学1年生を対象としたチャレンジカップ、3月に会長杯争奪室内サッカー大会を開催し、一年を通して幅広い年齢においてサッカーを楽しめる環境づくりを目的として実施しています。

また、競技規則を正しく理解しフェアプレーを高めることを目的として、中学生・一般・シニアを対象として6月に審判講習会を開催しています。

中体連や各種団体から依頼される大会における運営及び審判派遣を行っています。

事業運営の円滑化のため、小学生部会・中学生部会・一般部会・シニア部会の4つの部会を設けサッカーの普及と技術向上を目指し活動を行っています。

《今後の展望》

少子高齢化は、当協会においても課題となっています。

試合の成立は、試合開始時に1チーム最低7名となっており大会に参加できる人数が確保できないためにチームが消滅した事例も出てきています。

今後は、チームの統合等により、各種大

会に参加できるよう協会及び各チームの連携強化が必要です。

逆に、年々、シニアの参加人数が増えてきており、全てのプレイヤーが楽しめる大会要項の見直し等が求められております。

サッカーの楽しさを、たくさんの子供たちに知ってもらい競技人口が増えるためにも協会役員が一体となり組織強化及び各関係団体との連携強化を図り取り組んでいきたいと考えています。

江別相撲連盟

設立 昭和25年4月以前

加盟 昭和45年4月26日

《現 役 員》

顧問	佐藤 良男
会長	山崎 実
理事長	藤田 昌之
事務局長	宮野 正春
事務局次長	富田 薫夫
理事	堀田 利男
〃	永浦 廣
〃	鈴木 正和
監事	永浦 廣
〃	神谷 正明

《近 況》

江別相撲連盟の歴史は古く、昭和初期から戦後の昭和30年近くまで全道規模の各種大会が盛んに開催されている記録や写真が残されている。

当時は江別国技会と称しており、その後10年間程度停滞して時期はあるが、故清水重雄を中心として、顧問 佐藤良男らが昭和44年に再び江別相撲連盟に改正し現在に至っている。

連盟発足当時は市民体育大会、江別神社の花相撲等では市役所、王子製紙、建設会社、消防署等数多くのチームが参加しておりました。

また、地元江別には道内屈指の名門 野幌機農高校相撲部があり、江別相撲連盟に一段と活気をもたらしていた時期もありました。

昭和49年に開催された第29回国体道予選は江別神社例大祭に併せ、神社境内の常設土俵で行われ、地元江別から2チーム出場、Aチーム 先鋒 荒川、次鋒 鷹橋、大将 佐藤 Bチーム 先鋒 藤田、次鋒 河上、大将 山崎で挑んだが両チームとも予選リーグ敗退となる。個人戦では山崎が予選リーグ全勝で決勝トーナメントに進出しベスト8に入る大活躍をした。

また、平成26年の第69回国体道予選は市民体育館で開催され、個人戦では江別代表の山本（中央大）が、決勝で矢後（中央大）を破り見事優勝を果たしている。

最近は選手に不足が生じ、全道大会等に出場出来ず非常に残念に思っている次第です。

江別の相撲人口は減少しても先輩方が残してくれた江別相撲連盟の伝統と文化を引き継ぎ、次代を担う子供たちを育成していかなければと思うところです。



左から二人目 札幌相撲少年団出身
現在活躍中の 北青鵬



昭和 49 年第 29 回国民体育大会北海道予選会
江別神社土俵 藤田選手



江別神社例大祭奉納相撲大会



第 12 回全国都道府県中学生相撲選手権大会
小川、阿部
宿泊先の北の湖部屋



江別空手道連盟

設立 昭和52年11月15日

加盟 昭和53年 4月 1日

《現 役 員》

顧問	音部 憲夫
会長	金内 晴夫
副会長	笠羽 利憲
参与	深澤 秀則
〃	久津間 義一
理事長	石塚 健治
副理事長	加藤 憲三
〃	守田 純子
〃	永田 裕樹
〃	渡辺 博臣
〃	七尾 大介
〃	松岡 義彦
〃	花田 浩光
監事	小松 直人
〃	吉田 一之
事務局長	金子 真司

(歴代会長)

伊藤 信一	(昭和52～昭和57年度)
星 武	(昭和58～平成8年度)
布川 義治	(平成9～平成22年度)
音部 憲夫	(平成23～平成29年度)
金内 晴夫	(平成30～現在)

(歴代理事長)

菅原 晴隆	(昭和52～昭和61年度)
音部 憲夫	(昭和62～平成22年度)
金内 晴夫	(平成23～平成29年度)
石塚 健治	(平成30～現在)

(歴代事務局長)

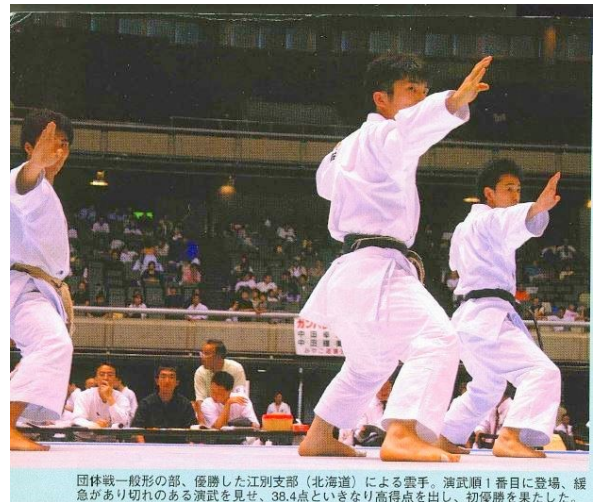
加藤 憲三	(昭和52～昭和55年度)
金内 晴夫	(昭和56～平成22年度)
田谷 寿樹	(平成23～平成30年度)
金子 真司	(令和2～現在)

《活動の歩み》

江別空手道連盟は札幌地区空手道連盟の所属であり、北海道空手道連盟傘下の地区連盟に、区および市の団体として認定されています。平成15年国民体育大会北海道代表選手や、翌年全日本空手道選手権北海道地区大会で優勝し全国9地区の北海道

代表選手を輩出しました。

全国大会へ毎年多くの出場者があり、特に平成15年内閣総理大臣杯第46回全国空手道選手権大会で団体形の部（各都道府県より48チーム出場）江別支部チームは見事な演武で全国大会初優勝をいたしました。この内閣総理大臣杯全国空手道大会では、第48回から第50回まで3年連続優勝し、江別市体育協会より最優秀特別表彰を受賞して、輝かしい成績を日本空手協会江別支部が残したことは特に称賛される所であります。



団体戦一般形の部、優勝した江別支部（北海道）による演武。演武順1番目に登場、緩急があり切れのある演武を見せ、38.4点といきなり高得点を出し、初優勝を果たした。

平成15年6月 東京都立体育館
左から村山、榊、秋庭の各選手

江別空手道連盟の多くの活動は各空手道スポーツ少年団であり、北海道少年少女空手道錬成大会をはじめ、さまざまな大会において優秀な成績をあげておりますのでこれらが高体連の空手道大会、大学空手道選手権大会、国民体育大会空手道競技などの各種空手道大会につながるなど、活躍の原動力になっていると言っても過言ではありません。

夏休みに行われる文部科学大臣杯小学生・中学生全国空手道選手権大会にたくさんの野幌空手道スポーツ少年団員が、全道大会の予選を勝ち抜き北海道代表選手として、毎年出場し活躍をしていることは新聞等で報道されています。



令和元年8月 三重県伊勢市サン・アリーナ

江別市青少年スポーツ賞では、スポーツ奨励賞などに毎年のように空手道スポーツ少年団員が受賞しており、活躍状況を推測することができます。

ドイツとの日独スポーツ少年団同時交流で1992年中田康之さん(大麻空手)、2014年杉本佳亮さん(野幌空手道)、2019年芳賀えみりさん(江別空手道)が、日本団の一員として派遣され約2週間ドイツの家庭にホームステイするなどして、ドイツスポーツユースとの交流やスポーツ施設と指導方法などを研修しました。中国との日中少年交流団で2011年に、野幌空手道スポーツ少年団員の中学生6名が中国江蘇州へ1週間研修に参加して、中国のスポーツ環境などを学びスポーツ団体との友好を深めてきました。

平成20年2月23日に江別空手道連盟創立30周年記念祝賀会を「あおい」において、佐々木江別市副市長、池永江別市体育協会会長(当時)をはじめ、江別市体育協会各加盟団体代表の皆様85名ものご臨席をいただき盛大に開催いたしました。



布川会長を囲んでご来賓と体協関係の皆様
平成20年2月23日 あおい

開会のころは小雪が舞う程度でしたが、祝宴が進むとともに戸外は石狩湾で発生した爆弾低気圧が急激に発達し、会場を出る頃は猛吹雪となり国道12号線は車の往来もままならないほどに、帰路を阻まれて天候回復を待機していると、ほどなく冬の夜空に満天の星が輝き「30周年を祝う紙吹雪ならぬ猛吹雪と星空の祝福」の思い出深い祝賀会となりました。

《現 状》

2020東京オリンピックの開催に向け、空手競技が正式種目として決定して以来広く注目と関心が集まり、見た目にも格好よくて一時的には市内の空手人口も増加していました。試合のルールも国際化し空手道が、武道として培われ特有である「技の極め」よりも、スポーツ化して「スピードが重要視」され、一般の観客にも勝敗が容易に判断できるようになりました。

《今後の展望》

令和2年からの新型コロナウイルス感染症の影響で、自粛により活動が停滞しており、早期の収束によって全面再開できるよう期待しています。

少子高齢化の影響と特殊な競技でもあり、容易に上達することの難しさで辞めてしまうなど、オリンピック種目に決まった時のようなブームは去ってしまった感はありません、しかしスポーツ少年団をはじめとして高校や大学の空手道部、一般の空手道愛好者などの幅広い年齢層が活躍をしており、今後の活躍も期待できます。家庭婦人や高齢者が体の整美と健康維持などに、空手道を嗜む人が増えておりますので、今後更に市民への普及活動に努めてまいります。

江別ソフトボール協会

設立 昭和59年11月24日

加盟 昭和60年 5月24日

《現 役 員》

会 長	松野 茂
副 会 長	青沼 茂子
参 与	五十川 智美
理 事 長	森 孝一
副理事長	佐藤 勝見
理 事	斉藤 真由美
〃	寺下 富子
監 事	古川 ケイ子
〃	大橋 淳子
事 務 局	森 孝一

《活動の歩み》

平成13年の登録状況は、ビックスネイル、フレンズ、レッドキラーズの家庭婦人3チームと江別第一中学校、江別第二中学校、江別第三中学校、立命館慶祥中学校、中央中学校5チーム計8チームで協会を運営、その後ソフトボール部の廃部などによりチーム数が減少し平成27年は中学校の登録は0となり、家庭婦人チームの2チームとなってしまった。平成29年にとわの森三愛高等学校、一般男子のブレイザーズが登録され4チームとなる。

大会関係は平成13年から数年間道民スポーツ予選会、市民大会、杜の美自動車学校杯などの8大会が開催されていたが、平成20年には家庭婦人の大会は参加する人数の減少により江別で大会開催が困難となり札幌市厚別区で近隣市との大会に合同チームとして参加、親睦を深める。

令和2年は新型コロナにより大会は中止の予定であったが、関係者の配慮により第67回市民大会、高校にあっては石狩管内、全道大会が開催され、とわの森三愛高校が夏季ソフトボールフェスティバル大会で全道優勝することが出来ました。

(平成30年大会結果)

・誠和グループ女子ソフトボール大会
江別市、北広島市、札幌市の5チームでのリーグ戦 2勝2敗

・第65回市民大会
優勝 ベースボールクラブ
準優勝 ブレイザーズ

・全国高等学校総合体育大会
とわの森三愛高等学校 2回戦進出

・第73回国民体育大会
とわの森三愛高校 2回戦進出

・全国選抜大会
とわの森三愛高校 ベスト8進出

《現 状》

急速な少子高齢化や生活様式の多様化などによってソフトボール人口の減少により登録人数は、年々減っているが、平成29年に高校女子1、一般男子1チームが加盟し4チームとなったが、現状は厳しい状態である。

平成30年には江別市教育委員会の後援、江別市立第一中学校共催によりソフトボール人口の拡大のため、石狩管内ソフトボール協会技術指導委員長 白濱 勝 氏を講師として市内中高生を対象にソフトボールの楽しさなど講習会を実施したが、望むほど参加人数は多くなかったことが残念であった。

公認審判員は2名で、工業団地親睦ソフトボール大会参加、また石狩管内、全道、全国大会の審判員として、ソフトボールの普及発展のため尽力している。

《今後の展望》

平成25年に2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定され、ソフトボール人気が再び高まることを期待していたが、全道的にソフトボール人口の減少により、チーム数の減少に繋がる。

ソフトボール人口の拡大を図るには、まず協会組織の充実と、スポーツは「観る」だけでなく参加すること。現在市民大会で実施している。現在市民大会で実施しているスローピッチ方式、野球と違うルール。

第一は、投手は打者に打ちやすい（山なり）のボールを投球する。

第二は、打者はバントができない。ツーストライク後ファールボールはアウトになる。

第三は、走者は盗塁ができない。

試合は打って守るだけでも誰でも参加できることから小学生、中学生、高校生、高齢者を対象にソフトボール講習会を開催し、競技人口の拡大と競技力の向上、発展のため努めなければならない。



市民大会



令和元年中学生講習会



令和2年度とわの森三愛高等学校ソフトボール部

江別ゲートボール協会

設立 昭和59年 4月15日

加盟 昭和60年10月22日

《現 役 員》

会 長	角 田 一
事務局 長	原 慶一
総務部長	佐藤 幸次
審判部長	古賀 新市
競技部長	古明地明子
会計部長	佐藤 信子
会計副部長	石黒 リツ
会計監査	戸嶋 蔵治

《活動の歩み》

- 昭和58年の夏に、市教育委員会体育課(担当内村邦臣氏)と、市体育指導員の砂川茂吉氏、平岡信夫氏、寺尾テル氏、辻岡俊介氏等が、市民の間でゲートボール愛好者が増加し、各地域でチームが結成されていることより、協会設立が必要との話し合いがなされ、協会設立準備会を発足が申し合わせる。
- 昭和58年10月2日 協会設立に向けての第1回江別市長杯大会が、あおさぎ公園で開催され、24チーム、180名が参加し、協会設立の機運が盛り上がる。
- 昭和58年12月22日 協会設立準備会が発足し、翌59年3月20日に設立準備会総会を開催。
- 昭和59年4月15日、協会設立総会が市民体育館会議室にて開催され、会長に山田利雄氏(元市長)、事務局長に平岡信夫氏を選任する。
- 昭和59年11月23日、第1回協会長杯大会が大森体育館(室内)において開催され、17チーム、188名が参加。盛会のうちに終了し、記念すべき大会となった。
- 昭和60年10月 江別市体育協会に加盟する。会員数は490名。
- 昭和60年10月29日 ルールの全国統一に伴い、北海道連合に加盟する。
- 昭和62年4月、39クラブ、会員数592名となる。
- 昭和63年8月 泉の沼公園ゲートボール

コート(6面)が完成

- 平成3年4月 松崎可夫氏(篠津)が会長となる。
- 平成3年8月 第8回全日本世代交流ゲートボール大会(於東京都)に高砂町チーム(小松原辰男氏他6名)が出場する。
- 平成6年4月 五十嵐忠男氏(西野幌)が会長となる。
- 平成9年5月 第12回全国選抜ゲートボール大会(於奈良県)に若葉クラブ(上原慶一氏他6名)が出場、決勝トーナメント進出。
- 平成9年9月 第10回全国ねりんピック97山形大会(於山形県)に寿クラブが出場し、決勝トーナメント戦に進出し、敢闘賞を受ける。
- 平成13年4月 土蔵辰馬氏(元江別こぶし)が会長となる。
- 平成20年6月 全道高齢者スポーツゲートボール大会が参加者250名を集め、飛鳥山公園多目的市民広場で開催。
- 平成24年8月20日 石狩管内スポーツフェスタに3クラブが参加、以降石狩連協の解散により、他地区協会との対外試合は最後となる。
- 平成25年4月 角田 一(元江別こぶし)が会長となる。
- 石狩連絡協議会の解散に伴い、北海道連合を脱会し、江別協会単独運営に移行。
- 各地区連絡協議会を協会に統合し、それぞれが実施してきた大会は終了とする。
- 平成27年4月 加入クラブ数減少により、賛同する個人での加入を認める。
- 平成28年3月 夏季の大会開催を湯川公園のみとする。
- 平成30年4月 会員資格を個人とする。それに伴い、各大会のチーム編成を抽選による形式に変更。

《現 状》

- ・令和2年度末登録会員 19名
- ・総会、役員会
- ・大会
 - (1) 夏季大会
 - (2) 協会長杯
 - (3) 北海道新聞江別支局長杯(室内)
- ・交流会
 - (1) 夏季ゲートボール広場
 - (2) 室内ゲートボール広場

《今後の展望》

活動の歩みからもご理解いただけるとは思いますが、全国的なゲートボール愛好者の激減は、江別市においても同様であり、単位クラブの解散や各地のゲートボール場の廃止や返上が相次ぎ、競技団体としての活動は困難を極めております。

これまでも、プレイヤーの維持のために会員資格や大会出場資格の緩和、単位クラブによる協会編成から個人での加入へと協会体制の変更を進めるとともに、新規会員の拡大を目指し、役員のみならず会員一人一人が声掛けを行ってききましたが、会員数の減少に歯止めをかけることはできませんでした。

このため、協会として、今プレーを楽しんでいる会員や愛好者を大切にし、親睦を深めつつ競技を継続できるように取り組んでまいりました。

単位クラブの解散やゲートボール場の廃止により、個人で楽しまれている愛好者が集い、練習や試合をできるように、協会の活動をより交通の便のよい湯川公園コートへ集約し、週2回のゲートボール広場の開催、また競技スタイルやチーム編成も弾力的に運用し、大会の実施を図るなど行ってまいりました。

今後においても減少傾向は変わらないと考えており、協会の役割として、会員一人一人が一日でも長く、ゲートボールを楽しむことができるように活動を進めていきたいと考えております。



2015年9月 第19回秋季ゲートボール大会



2018年8月 江別ゲートボール協会会長杯大会



2019年3月 第30回北海道新聞江別支局長杯大会

江別少林寺拳法協会

設立 昭和61年 4月 1日

加盟 昭和61年12月11日

《現 役 員》

会 長	山岸 勝明
理 事 長	野坂 政司
副理事長	岩田 信一
理 事	大藤 卓也
〃	小林 智彦
〃	前田 政巳
〃	法理 久子
事 務 局	高橋 康子
監 査	清川 貴久

《沿 革》

- 2003年 少林寺拳法グループの組織改革機構の一環により支部道場名の変更が実施
江別大東道院拳友会 江別大麻道院拳友会となる
- 2007年 山岸勝明 三代目会長に就任

《当協会の指針》

少林寺拳法は創始者 宗道臣（開祖）により第二次世界大戦終戦後1947年に香川県多度津町で創始されました。

たくましい肉体と強い精神を兼ね備え、思いやりとやさしさを持った青少年の育成による社会に役立つ人づくりをスローガンにまたたく間に日本全国、世界20か国に普及し、10万人を超える組織として活動をつづけています。

1986年江別少林寺拳法協会設立、同年江別スポーツ協会に加盟し35年間地域の皆様のご理解ご支援を受け今に至っております。

この間、世界情勢は大きく変化し、また科学技術の進歩によって日常生活を含め医療や福祉の面においても飛躍的な向上がみられました。

しかし、いつの時代においても健全で平等なスポーツを通じた青少年育成は変わるこ

となく続けられ、その一端を担う団体として当協会も真摯に活動を続けてまいりました。

この活動は今後も変わることなく更なる情熱と向上心をもって役員、指導員一丸となり、責任をもって継続していきたいと考えております。

《活動の状況》

我々は少林寺拳法を通じて、たくましい肉体と強い心を育み、社会に役立つ「人づくり」を目的とし地域社会に根付いた青少年育成を実践しています。

また、少林寺拳法は老若男女、誰でも何時からでも始めることができる生涯スポーツとしての一面も持ち合わせていることから地域コミュニティの活性化の役割も持ち合わせています。

現在の会員は約50名ほどですが年齢構成は未就学児から70歳代までと多岐にわたり各自が自己の向上と仲間の研鑽に寄与すべく修練しています。

当協会の活動の一つに、毎月第四土曜日は協会の合同練習会の日と定め、所属の垣根を超え高校生大学生を含めた会員が一同に集い、少林寺拳法の特徴である面授面授の修練を行っています。

この合同練習会は普段一緒に活動できない拳士が、同じ修練を共に行い同じ時間を過ごす事によって人間性を養い、他者との協力による社会性を身に着ける大きな約割りを持つものとして協会活動の重要行事として実施されています。

そして、これらの活動が地域の方々への発信となり、地区で開催される行事やイベントにも参加することができるようになりました。これからも地域社会への貢献と発信を続けてまいります。

《今後の振興普及について》

昨今、青少年のスポーツ離れ（特に武道）はどのスポーツ団体においても深刻な

問題となっています。

このような状況下、昨年 少林寺拳法が長きにわたり念願していたインター杯種目（高校生対象）への導入が実施されました。

このインター杯種目導入は高校生会員の増加に対する起爆剤となりうる喜ばしい出来事であり、少林寺拳法のみならず武道団体全般への強いエールとなりました。当協会も大麻高校を中心に中学生高校生に対する振興普及のきっかけとして会員増加に取り組んでいく所存です。

今や少子高齢化、人口減少は避けることのできない問題ではありますが我々少林寺拳法団体は時代に即応した取り組みによって克服できると考え、早期よりその対策と取組を実施してきました。

少林寺拳法の特徴である生涯スポーツの枠組みを広げ、高齢者対象の少林寺拳法健康プログラムの導入、医療現場の活性化の一助として少林寺拳法の技術を用いた介護への取り組みを考案実施しております。

高齢者へ向けた健康プログラムは、人間本来の潜在的運動機能の活性化を無理なく楽しく行うことで心も体も元気に健やか維持することができるものとなっています。

そして仲間との交流によって孤独からの解放と生きがいの発見を目的としています。

介護師や医療従事者の負担軽減から考案された介護技術は、少林寺拳法の技術的特徴を最大限に生かし、介護の現場において最も重要な信頼関係構築の基本となる技術面のサポートを担っています。

このように少林寺拳法はスポーツとしての一面以外にも、現代社会に即応した様々な取組による多彩な活動を実施しています。

また、当協会が主管となり2008年から毎年2月の第二土曜日を開催日とし江別市以外の近隣地域で同じ活動する団体と少林寺拳法組織の基盤創りと会員の増加及び現会員の交流を目的として年1回技術修練の発表の場を設けています。

近隣地区の会員とのコミュニケーションを図ることで個々のモチベーションアップと、技術向上に非常に役立つ取組となっています。

当協会は様々な取組を通して、青少年育成に適した環境を構築し、指導体制を整え会長を中心に関係者一丸となって地域社会に貢献できる団体として精進していく所存です。



2007全国中学生大会



2018江別市表敬訪問



市民大会



全国高校生大会

江別パワーリフティング協会

設立 昭和60年1月 1日

加盟 平成 6年4月15日

《現 役 員》

顧問	堤 祐一
会長	鷺見 武
理事長	出口 徹文
事務局長	清水 伸二
監事	森田 勲
〃	原 正人
常任理事	山森 正春
理事	荒川 浩一
〃	菊池 里奈
〃	鈴木 龍次
〃	高橋 裕幸
〃	中易 千春
〃	田邊 伸二

《活動のあゆみ》

昭和60年に同好の志が集まり同好会として発足し、平成6年3月に「江別パワーリフティング協会」と名称を変更し、4月に江別市体育協会(現スポーツ協会)に加盟する。

その後「江別民体育大会」をはじめとし「全日本女子パワーリフティング選手権大会」他「秋季北海道パワーリフティング選手権大会」を主管開催し江別市民にパワーリフティングの面白さ、楽しさを広めてきましたが、各役員及び選手が勤務の関係で定日の夜間などのトレーニングが思うにまかせずしばらくの間は活動も休止状態となった。

そのような中でも、「江別市民体育大会」や「北海道パワーリフティング選手権大会」の審判や役員の派遣を続けてきましたが役員不在のトレーニング室において「数々のトラブル」が発生し、「フリーウエイト機材」の撤去と言う問題が発生してしまいました。この状態の中、(一財)江別市スポーツ振興財団との話し合いを繰り返していき2013年7月より役員3名が交代で平日の夜だけトレーニング室の管理指導を、お手伝いする事になり現在に至っています。

《現 状》

2013年7月より江別市民体育館トレーニング室管理指導を始めたところ、多くの利用者から興味を持って頂き、「市民体育大会」「北海道パワーリフティング選手権大会」「全日本高等学校パワーリフティング選手権大会」等を目指している選手が育っていく中で2018年9月に「全日本クラシックマスターズ大会」を江別市にて開催予定し江別市から3名の選手が出場予定をしていましたが、9月6日未明に胆振東部で地震が発生し北海道全域停電というアクシデントにより中止となってしまいました。しかしながら古参の選手が復帰して、代替地の兵庫県明石市において、市町村別団体戦で3位の成績、70歳以上の93kg級においてベンチプレス及びデットリフトの2種目で日本記録を樹立し優勝をはたし「江別パワーリフティング協会」を全国にアピールしました。

翌2019年6月にスウェーデン・ヘルシンボリにて開催された、「世界クラシックパワーリフティング選手権大会」マスターズ部門70歳以上93kg級に出場し2位という快挙を成し遂げ凱旋し、その後も「江別市民体育館トレーニング室」にて本人のトレーニング強化にとどまらず、若手選手の育成、そしてトレーニング室の一般利用者の健康・体力作りに協力してきました。

そのような中2020年1月に新型コロナウイルス感染者が日本国内で発見され、3月よりトレーニング室が閉鎖となり、東京オリンピック・パラリンピックの延期、緊急事態宣言により国内スポーツ大会が殆ど中止になり、スポーツ競技者にとって試練の年になりましたが、感染対策の徹底による無観客での大会開催等と少しずつ明るい兆しが見えはじめたなか、7月より江別市民限定で1回20名定員にてトレーニング室が開放され、10月からは市民以外の

方々にも開放されるようになり、少しずつではありますが、トレーニング室に元のような活気が漲ってまたように感じています。

《今後の展望》

今後の展望としては、会長及び理事長の高齢化を打開する為の若手指導者の育成及び会員、選手(全日本クラス)の育成、そしてトレーニング室の一般利用者とのつながりに力を注ぎ、(一財)江別市スポーツ振興財団の繁栄に少しでも力になれるように努力していきたいと思っています。

競技の普及振興に関しては、今までどおり「市民体育大会」の開催、そして年3回開催される「国民体育大会・パワーリフティング競技北海道予選会」「北海道ベンチプレス選手権大会」「秋季北海道パワーリフティング選手権大会」の継続を開催する事はもちろんこと、協会発足当初行われていた「財団」との共同事業の一般利用者むけの「健康トレーニング教室」の再開が出来ればと思っています。

まだまだ、新型コロナの感染拡大が許さない状況ですが、2021年6月に江別市民体育館において「第22回ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会」(一般男子・女子・サブジュニア・ジュニア)の誘致開催を計画し、日本トップクラスの肉体美そして怪力を見ていただける事を楽しみにしています。

又、マスターズ部門においては、4名の選手が北海道大会を目指し、その内3名が国内大会を目指して頑張っておりトレーニングに励んでいます。

なかでも、理事長が元気にトレーニングに励んでおりアマチュアには引退はない「一生燃焼」という座右の銘の元、再び日本記録の更新そして80歳まで現役でいられたら、又世界大会に行きたいと意気込みをみせ、若手選手の手本となるべく頑張っておりトレーニングに指導に励んでいる状況で「江別スポーツ協会」傘下にあつて健康・体力作りにパワーリフティングを通して市民に貢献してまいります。



2019 世界クラシックパワーリフティング選手権大会 出口徹文選手
スウェーデン ヘルシングボリ
左：デッドリフト 右：スクワット



事務局局長勇姿



新旧メンバー揃って



ベンチプレス競技

江別市武術太極拳連盟

設立 平成2年9月 1日

加盟 平成6年4月15日

《現 役 員》

会長(代行)	石山 雅志
理事 長	石山 雅志
理事	島田 明日美
監 事	赤塚 朋子
〃	中條 順子
会 計	石山 ゆい

《活動の歩み》

1987年(昭和62年)日本武術太極拳連盟 創立日本連盟が社団法人となる

1989年(平成元年)北海道武術太極拳連盟 創立

1990年(平成2年)北海道武術太極拳連盟に加盟。アジア大会の正式種目となる。

1991年(平成3年)日本連盟が体育協会に加盟

1993年(平成5年)江別武術太極拳連盟として江別市体育協会に加盟

1994年(平成6年)全国選手権大会初出場。以後、毎年出場

1995年(平成7年)ジュニアオリンピック初参加 2名以後、毎年参加

1999年(平成11年)全日本競技大会初出場

2000年(平成12年)第一回北京海外強化合宿参加 コーチ1名 選手1名

日本連盟主催 強化合宿参加 以後強化選手認定 ジュニア強化選手認定が続く。

●ジュニア国際大会(2009-2019) メダリスト入賞者

山崎 航 太極拳(金)、村上僚 太極拳(金)、蝦名冬馬 太極拳(銀)、寺岡瑠里(入賞)

鎌田慎ノ介 剣術B(金) 槍術A(金)



鎌田慎ノ介：アジアジュニア武術選手権剣術B金メダル



鎌田慎ノ介：アジアジュニア選手権国際第三套路 槍術

日本武術太極拳連盟シニア強化選手認定者
(現役) 村上 僚 寺岡瑠里 鎌田慎ノ介 蝦名冬馬

■ 2018年 第1回世界大学生武術選手権大会

男子太極拳3位

(2019年まで) 大川智矢 山本大悟
鎌田健太郎 村上舜平

日本武術太極拳連盟東日本ジュニア強化選手認定者

(現役) 田中壮流 宮森創太

(初期から2019まで) 山岸正史 寺岡瑠里 古瀬美紅 鎌田健太郎 鎌田慎ノ介 沼田百菜 蝦名冬馬 村上 僚

●国体公開競技参加2019年茨城国体に参加

関本早織 規定太極拳3位. 鵜飼瑚子規

定ジュニア 2 位

● 2019 年ねんりんピック参加 初
出場 51 チーム中 26 位



国体表彰式 鶴飼 瑚子 (左)



ねんりんピック太極拳大会 北海道代表 江別市イレスカムイ
チーム

《今後の活動の展望》

世界文化遺産としてまた生涯スポーツとしての活動

太極拳は今年 12 月世界文化遺産としてユネスコに認定されました。

今後は一国の太極拳ではなく世界の太極拳としての認識のもとに一層深く考察し活動しなくてはならないと考えます。

また競技だけではなく、その元になる文化や運動形式を学んでいきたいと考えています。

《競技スポーツとしての展望》

武術太極拳は今まで体操的な高難度の技を判定基準の大きな部分としてきました。

しかしユネスコの世界文化遺産認定と時を同じくして今後の競技ルール変更のための会議が行われました。

これからはより武術的なスピード、パワー、風格、身体能力、技術等の方向に採点が向かうようです。

江別市武術太極拳連盟では、既に 1 年前よりこのことに着手しており、今後は世界の情報を取るとともに新ルールや技術体系に対応していきたいと思えます。

最近では、使用機材や絨毯の質も変わってきておりますので設備要望も進めて行かなくてはなりません。

江別ミニバレー協会

設立 平成3年 5月13日

加盟 平成6年12月12日

《現 役 員》

会 長	島田 泰美
副 会 長	藤江 多恵
理 事 長	塚本 昭史
事務局 長	阿瀬川 裕子
事務局次長	小谷 美保子
〃	西川 裕憲
理 事	福川 夏央
〃	角田 瑞樹
〃	平林 健
〃	佐藤 基暉
会 計	畠山 ゆかり
会 計 監 査	渥美 千恵子
審 判 部 長	渡辺 れい子
令和2年度 協会登録人数	35名（上記役員含む）

《活動の歩み》

・設立当初から続けているチャリティミニバレー交流試合

平成3年（1991年）から開催している大会で、参加料の一部を、江別市社会福祉協議会へ寄付させていただいてもうすぐ30年になります。

平成 5年（1993年） 北海道南西沖地震

平成 7年（1995年） 阪神・淡路大震災

平成23年（2011年） 東日本大震災

令和 2年（2020年） コロナウィルス感染症予防対策が取れないために中止

※上記の年を除く

まもなく寄付金合計が100万円に届きそうなところまで来ているので、それを目標に頑張りたいと思います。

・平成26年（2014年）に、協会初、念願の冠杯を開催！！

当時の故布川義治前会長のお声かけで、江別管工事業協同組合杯を開催することができました。

協会設立から20年を過ぎたところで、やっと冠杯を開催することができ、協会員・役員、みんながワクワクしながらの運営でした。

たくさんのチームが参加してくれるようになり、この大会は江別ミニバレー協会の目玉の大会になりました。本当に喜ばしい限りです。

しかし、ここにきて、協会登録人数がどんどん減り（高齢化により）大会運営もままならないくらいになってしまいました。

令和2年度は、コロナウィルス感染症が猛威を振るい、感染予防対策もとれないことから、大会は中止に。

令和3年度も、コロナウィルス感染症の終息が見えないことと、役員不足で開催は無理になりました。

《現 状》

令和3年（2021年度）は、協会設立30周年を迎えますが、協会員減少に歯止めがかからず、大会を開催するにあたっての役

員不足が致命的で、大会運営をすることもままならない状況にきています。

今は、北翔大学・情報大学の学生がミニバレーサークルを作って、元気に頑張ってくれていますので、学生たちに登録をしてもらって何とか協会運営ができています。

今年度は、コロナウィルス感染症の感染予防対策を徹底することができず、江別ミニバレー協会のもとより、上部団体である全日本ミニバレー協会・北海道ミニバレー協会・道央ミニバレー協会すべての大会が中止になりました。

練習もままならない状況が続いている影響で、ミニバレーから離れてしまう人も出てきています。

来年度に向けて、ミニバレー熱が再燃してくれることを期待し、気持ちを新たに会員募集の声掛けをしていかなければならないと思っています。

《今後の展望》

・現在、協会登録をしている団体は、3団体。

女性だけで運営しているクリーミーズ、そして北翔大学・情報大学の学生。

他に、個人登録をしている男女数名というのが現状で、協会員を増やす活動をしていかなければならないことを痛感しています。

まずは、学生の勧誘と、ミニバレー教室の復活を考えています。

皆さんのまわりに、ミニバレーに興味のある方がいらっしゃいましたら、是非ともご紹介ください。丁寧に指導いたします！！

・開催している大会の見直し

協会設立当初から続けている大会として、

・江別会長杯

・江別チャリティミニバレー交流試合

・江別市民大会ミニバレー競技の三大会

そして、第6回まで開催している江別管工事業協同組合杯

思いとしては、すべての大会を続けていきたいのですが、役員不足と、コロナウィルス感染症予防対策が痛手となり、令和3年度は11月のチャリティミニバレー交流試合と市民大会の2大会のみ開催することになりました。

江別管工事業協同組合杯は、江別ミニバレー協会の目玉となる大会になってきてはいたのですが、それだけビックな大会になると、スタッフ不足では準備段階からつまずいてしまうことから、役員の中でも負担が大きいとの声もあり、やむなく開催を断念いたしました。

故布川義治前会長との継続していくという約束が守れなくなってしまったことが、非常に残念です。

今、私たちがしなければならないことは、協会を存続させていく努力、地道にミニバレーの楽しさを伝えていくことしかありませんね。

少ない協会員と協力して頑張りたいと思います。

江別パークゴルフ協会

設立 平成4年 4月30日

加盟 平成7年11月22日

《現 役 員》

顧問	勝部 賢志 (ば)
会長	岡村 繁美 (鉄)
副会長	吉田 孝之 (緑)
〃	中山 チズ子 (な)
〃	佐藤 日出子 (ば)
常任理事	遠藤 和夫 (緑)
〃	本間 久雄 (互)
〃	原田 勝明 (な)
〃	石澤 民夫 (野)
	(事務局長)
指導普及部長	落合 孝徳 (な)
競技部長	村田 敏廣 (ば)
事務局次長	福迫 健夫 (緑)
〃	麓 章一 (互)
会計部次長	所司 収世 (互)
指導普及部次長	中村 玲子 (緑)
競技部次長	稲波 幸芳 (な)
〃	古東 和弘 (鉄)
理事	佐々木 重幸 (互)
〃	川口 義雄 (鉄)
〃	小神 康浩 (緑)
〃	川村 光男 (野)
〃	神治 博明 (野)
〃	渡邊 孝夫 (鉄)
〃	宮脇 秀治 (ば)
〃	村田 紀美恵 (ば)
監事	佐藤 義夫 (ば)

(緑) 緑ヶ丘パークゴルフ同好会

(互) 互助会パークゴルフサークル

(な) ななかまどパークゴルフクラブ

(野) 野幌東パークゴルフ会

(鉄) 鉄友パークゴルフ同好会

(ば) 行きあたりばったりパークゴルフ同好会

*令和3年3月現在の加入団体は6団体です。

《活動の歩み》

協会発足後は、平成9年12月、江別市、石狩市、北広島市の3協会に「国際パークゴルフ協会石狩支部」を設立し、その後当別町、新篠津村、厚田村の各協会が加わり、今日の5市町村で組織する「石狩地区パークゴルフ協会連合会」に加盟してその活動範囲を拡大しております。以来20数年、歴代役員の皆様を始め各同好会関係者のご努力によって大きく発展してきました。

さて、パークゴルフは高齢者の方から子供まで三世代で楽しめ、気軽でほどよい運動であり、健康増進、体力増強、そして何よりも仲間との語りや競技を通じての、切磋琢磨など幅広い魅力を有したスポーツです。そのような意味からパークゴルフ熱は、瞬く間に全道・全国に広がり、飛躍的に愛好者が増えてきました。江別市における、健康都市宣言に基づき高齢化が進行する現状において、私たちが生涯を通じて健康で明るく、活力に満ちた生活を送る事ができるよう様々な施策を講じていく事としておりますが、その中でもパークゴルフの普及や愛好者が増えることは、大変意義のあることであり、更なる普及活動の拡大を図りながら、今後もパークゴルフを通じて友情の輪を広げ、高齢者のみならず、多くの方々に親しまれる生涯スポーツとして発展させてまいります。

平成12年以後の協会会員の推移

平成12年367名	々	13年492名	
々	14年508名	々	15年539名
々	16年564名	々	17年598名
々	18年608名	々	19年599名
々	20年583名	々	21年617名
々	22年615名	々	23年610名
々	24年611名	々	25年610名
々	26年547名	々	27年472名

々 28年463名 々 29年 418名
々 30年333名 々 31年 338名

《現 況》

会員増加に伴い、ニュースポーツ・パークゴルフの発祥精神を基本として健康で・明るく・楽しく・ルールがやさしいコミュニティスポーツの普及により市民の皆様が、健康で楽しい生活を送れる様サポートをする事に、協会役員一同が心掛け活動しております。

協会事業

I. 各種大会

1. 江別協会長杯 6月
2. 菊水杯 6月
3. 北海道信用金庫杯 7月
4. 江別建設業協会会長杯 8月
5. 江別市市長杯 7月
6. 江別市民体育大会 8月
7. ユベオツの風杯 9月
8. エコ・グリーン杯 10月

II. ルール・マナー講習会

1. 公認指導員並びにアドバイザー研修会 年数回
2. 公認指導員並びにアドバイザー認定講習会 年1回
3. 一般市民初心者講習会 数回/年

III. 協会内指導者人数

公認指導員	26名
アドバイザー	40名
計	66名

《今後の展望》

近年は同好会や協会加盟者数が減少の一途をたどっており、江別協会や連合会が主催する大会への参加者も減少しております。これは、定年年齢が引き上げられそれに伴って会員の高齢化が進んだこと。また、競技を重視していくと気軽に楽しもうとする人や初心者などから敬遠されること。さらに、協会等に参加すると役員が回ってくるなど、会の制約など、会の制約などを煩わしく感じる人たちも増えてきていることなどによるもの

のと思われます。このような状況をどう乗り越えていくかが今後の大きな課題ですが、いずれにしてもパークゴルフ協会が江別のパークゴルフの発展に大きな役割を果たしてきたことは言うまでもないことであり、今後も会員の皆様を大事にした運営に心がけながら、会の発展に力を尽くしていかなければならないと考えています。



第18回北海道信用金庫杯パークゴルフ大会



第25回ユベオツの風杯パークゴルフ大会

江別新体操協会

設立 平成 5 年 5 月 1 2 日 新体操教室発足

平成 1 4 年 4 月 1 日 江別新体操協会規約施行

加盟 平成 1 4 年 6 月 1 7 日

《現 役 員》

顧問	和田 義明
参与	林 紀博
会長	清水 直幸
副会長	工藤 直人
〃	横井 美香子
〃	三木 公
理事長	杉林 義文
総務部	大西 真紀子
〃	福田 亜海子
強化部	中野 芽衣子
〃	森多 伸明
〃	加藤 愛梨紗
事業部	佐々木 良憲
〃	小松 寛子
〃	川原 一徹
監事	能登 彩
〃	小山 翔平

歴代会長

初代 春日 基

平成 13 年 4 月～平成 17 年 1 月

2代 林 紀博

平成 17 年 4 月～平成 28 年 3 月

《活動の歩み》

北海道体操連盟では普及度の低い新体操（特に男子）をいかに多くの人に理解してもらい、愛好者を増やし普及させる事が大きな課題でした。そんな時、新体操が好きな人ばかりのボランティア精神で集まった杉林 義文、工藤 直人、三木 公、海津 美香子の 4 氏が「江別市スポーツ振興財団」

「江別市教育委員会」のご協力ご援助をいただき平成 5 年 5 月 1 2 日江別市民体育館に「新体操教室」を発足することが出来ました。

男女 26 名、コーチ 6 名の小さなグループでしたが夢は全国大会に出場しメダルを貰うことでした。江別市の協力でのこの 2 7 年間、市民体育館、野幌運動公園体育館を拠点に活動をしてきました。

夢であった全国大会のメダルの獲得は子供達の頑張りで平成 9 年に個人、10 年に団体と念願を達成出来ました。これもコーチの熱意で全国的な選手が育ち、高校、大学へと繋がりました。

特に 2008 年 2009 年の全日本選手権大会で 2 年連続優勝の春日克之、2008 年の鈴木一世の準優勝は江別新体操クラブの設立目標を達成し北海道の新体操のレベルの高さを維持しています。多くの子供達が高等学校へ、更に大学へと進学して競技を続け活躍しています。

現在は 4 クラブで指導者 30 人余りはクラブ出身であり、選手 1 4 5 名余りが活動をしています。

クラブ開講 2 8 年で多くの新体操愛好者が育っており、関係各位に心から感謝申し上げます。

記念事業

5 周年記念発表会

平成 10 年 3 月 8 日

江別市民体育館で開催する

恵庭5周年記念発表会招待

平成13年2月25日

オリンピック選手松永理恵子・国士舘大学
(男子団体)

10周年記念発表会招待

平成15年2月22～23日

山崎浩子・山田小太郎氏を招聘し強化練習
会をする

15周年記念発表会招待

平成22年3月20～24日

男子団体 国士舘大学 個人 清水翔吾
女子団体 日本女子体育大学

20周年記念発表会招待

平成28年3月16～18日

男子団体 青森大学 個人 斉藤剛大
女子個人 徳田優花 飴嶋莉衣 飯村玲美

《現状と今後の展望》

江別新体操連盟は札幌体操連盟・北海道体操連盟・日本体操連盟に登録しており、日頃の練習結果を各大会で発揮するよう努力をしている。特に男女共に北海道予選を突破し全日本ジュニア選手権大会出場を目指して常日頃練習に励んでいます。

平成20年・第63回大分国体を最後に国体の新体操男子の部が休止となっていました。関係各位の甚大なるご協力です令和5年78回佐賀国体から復活されることになり子供達の大きな励みとなりました。

佐賀国体からは中学3年生も出場することができ、ジュニアクラブとして大きな目

標で指導ができコーチも指導に力が入ると思います。

男子も女子も北海道の予選を突破し、国民体育大会、全日本ジュニア選手権大会の出場を目指し父母の協力も得て頑張りたいと思います。目標を達成するためには新体操を愛する人を一人でも多くクラブに入会するよう皆様のご協力を頂きたい。



平成6年2月第1回発表会 青年センター



2015年10月第33回全日本ジュニア新体操選手権大会 男子団体4位 代々木第一体育館



2018年11月第36回全日本ジュニア新体操選手権大会 女子団体19位 群馬県

歴代役員

名称		江別市体育協会	江別市体育協会	江別市体育協会	江別市体育協会
役職名		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
顧問		久美屋 清一郎 高間 専正 角 谷 正宏	久美屋 清一郎 高間 専正 角 谷 正宏	久美屋 清一郎 高間 専正 池田 春男	久美屋 清一郎 高間 専正 池田 春男
	会長	池 永 和 親	池 永 和 親	池 永 和 親	池 永 和 親
副会長		池 田 春 男	池 田 春 男	服 部 實	服 部 實
		服 部 實	服 部 實	中 川 正 志	中 川 正 志
		中 川 正 志	中 川 正 志	今 井 利 秀	今 井 利 秀
理事長	今 井 利 秀	今 井 利 秀	富 川 核	富 川 核	
副理事長		月 田 孝 一	月 田 孝 一	月 田 孝 一	月 田 孝 一
		金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫
		富 川 核	富 川 核	工 藤 旻	工 藤 旻
監 事		佐々木 亨	佐々木 亨	佐々木 亨	佐々木 亨
		櫻 木 光 雄	櫻 木 光 雄	櫻 木 光 雄	後 藤 一 昭
理 事	江別市陸上競技協会	三 宅 久 雄	三 宅 久 雄	茶 木 秀 昭	茶 木 秀 昭
	江別バレーボール協会	富 川 核	富 川 核	富 川 核	富 川 核
	江別卓球連盟	橋 本 茂 昭	橋 本 茂 昭	橋 本 茂 昭	橋 本 茂 昭
	江別バスケットボール協会	中 内 良 朗	中 内 良 朗	中 内 良 朗	中 内 良 朗
	江別野球連盟	今 井 利 秀	今 井 利 秀	佐々木 一男	佐々木 一男
	江別テニス協会	鈴 木 潤 治	鈴 木 潤 治	鈴 木 潤 治	鈴 木 潤 治
	江別水泳協会	大 野 聰	大 野 聰	大 野 聰	大 野 聰
	江別弓道連盟	前 田 孝	前 田 孝	前 田 孝	小 椋 公 司
	江別バドミントン協会	野 川 豊	野 川 豊	野 川 豊	野 川 豊
	江別スキー連盟	木 内 俊 次	木 内 俊 次	木 内 俊 次	木 内 俊 次
	江別市スポーツ少年団	佐 古 利 男	佐 古 利 男	佐 古 利 男	佐 古 利 男
	江別ソフトテニス連盟	工 藤 旻	工 藤 旻	工 藤 旻	工 藤 旻
	江別柔道連盟	田 中 啓 介	田 中 啓 介	中ノ目 敏雄	中ノ目 敏雄
	江別剣道連盟	吉 田 雄 策	吉 田 雄 策	中 山 喜 美 雄	中 山 喜 美 雄
	江別サッカー協会	堀 江 祐 一	堀 江 祐 一	堀 江 祐 一	堀 江 祐 一
	江別相撲連盟	佐 藤 良 男	佐 藤 良 男	藤 田 昌 之	藤 田 昌 之
	江別空手道連盟	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫
	江別ソフトボール協会	月 田 孝 一	月 田 孝 一	月 田 孝 一	月 田 孝 一
	江別ゲートボール協会	上 原 慶 一	上 原 慶 一	上 原 慶 一	上 原 慶 一
	江別少林寺拳法協会	鍵 谷 真 紀 子	鍵 谷 真 紀 子	野 坂 政 司	野 坂 政 司
	江別パワーリフティング協会	出 口 徹 文	出 口 徹 文	出 口 徹 文	出 口 徹 文
江別市武術太極拳連盟	石 山 美 智 子	石 山 美 智 子	石 山 美 智 子	石 山 雅 志	
江別ミニバレー協会	阿 瀬 川 裕 子	阿 瀬 川 裕 子	阿 瀬 川 裕 子	阿 瀬 川 裕 子	
江別パークゴルフ協会	佐 藤 一 郎	佐 藤 一 郎	佐 藤 一 郎	佐 藤 一 郎	
江別新体操協会		春 日 基	春 日 基	春 日 基	
江別ボウリング協会		八 澤 昭 司	八 澤 昭 司	八 澤 昭 司	
(事務局長)	原 利 明	松 浦 泰 夫	田 代 憲 一	前 田 優 二	
(事務局次長)	松 浦 泰 夫	大 野 忠 幸	齊 藤 和 之 幸		
(事務局員)	長 尾 え り 子	長 尾 え り 子	長 尾 え り 子	長 尾 え り 子	

歴代役員

名称		江別市体育協会	江別市体育協会	江別市体育協会	江別市体育協会
役職名		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
顧問		久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 春男	久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 春男	久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 春男	久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 春男
	会長	池 永 和 親	池 永 和 親	池 永 和 親	池 永 和 親
	副会長	服 部 實	服 部 實	服 部 實	服 部 實
		中 川 正 志 今 井 利 秀	中 川 正 志 今 井 利 秀	中 川 正 志 今 井 利 秀	中 川 正 志 今 井 利 秀
理事長	富 川 核	富 川 核	富 川 核	富 川 核	
副理事長	月 田 孝 一	月 田 孝 一	月 田 孝 一	月 田 孝 一	
	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	
	工 藤 旻	工 藤 旻	工 藤 旻	工 藤 旻	
監 事	佐々木 亨	佐々木 亨	佐々木 亨	佐々木 亨	
	後藤 一昭	後藤 一昭	後藤 一昭	後藤 一昭	
理 事	江別市陸上競技協会	茶 木 秀 昭	茶 木 秀 昭	茶 木 秀 昭	茶 木 秀 昭
	江別バレーボール協会	富 川 核	富 川 核	富 川 核	富 川 核
	江別卓球連盟	橋 本 茂 昭	橋 本 茂 昭	橋 本 茂 昭	橋 本 茂 昭
	江別バスケットボール協会	中 内 良 朗	中 内 良 朗	中 内 良 朗	中 内 良 朗
	江別野球連盟	佐々木 一男 鎌 倉 猛	鎌 倉 猛	鎌 倉 猛	鎌 倉 猛
	江別テニス協会	鈴 木 潤 治	鈴 木 潤 治	鈴 木 潤 治	鈴 木 潤 治
	江別水泳協会	大 野 聰	大 野 聰	大 野 聰	大 野 聰
	江別弓道連盟	小 椋 公 司	三 瀬 博	三 瀬 博	藤 本 敏 男
	江別バドミントン協会	野 川 豊	野 川 豊	野 川 豊	野 川 豊
	江別スキー連盟	木 内 俊 次	木 内 俊 次	木 内 俊 次	木 内 俊 次
	江別市スポーツ少年団	佐 古 利 男	佐 古 利 男	佐 古 利 男	佐 古 利 男
	江別ソフトテニス連盟	工 藤 旻	工 藤 旻	工 藤 旻	工 藤 旻
	江別柔道連盟	中ノ目 敏雄	中ノ目 敏雄	中ノ目 敏雄	中ノ目 敏雄
	江別剣道連盟	中 山 喜 美 雄	中 山 喜 美 雄	中 山 喜 美 雄	中 山 喜 美 雄
	江別サッカー協会	堀 江 祐 一	堀 江 祐 一	堀 江 祐 一	堀 江 祐 一
	江別相撲連盟	藤 田 昌 之	藤 田 昌 之	藤 田 昌 之	藤 田 昌 之
	江別空手道連盟	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫
	江別ソフトボール協会	月 田 孝 一	月 田 孝 一	月 田 孝 一	月 田 孝 一
	江別ゲートボール協会	上 原 慶 一	上 原 慶 一	上 原 慶 一	上 原 慶 一
	江別少林寺拳法協会	野 坂 政 司	野 坂 政 司	野 坂 政 司	蘇 武 正 春
	江別パワーリフティング協会	出 口 徹 文	出 口 徹 文	出 口 徹 文	出 口 徹 文
	江別市武術太極拳連盟	石 山 雅 志	石 山 雅 志	石 山 雅 志	石 山 雅 志
	江別ミニバレー協会	阿 瀬 川 裕 子	阿 瀬 川 裕 子	阿 瀬 川 裕 子	阿 瀬 川 裕 子
江別パークゴルフ協会	佐 藤 一 郎	佐 藤 一 郎	伊 藤 博 昭	伊 藤 博 昭	
江別新体操協会	林 紀 博	林 紀 博	林 紀 博	林 紀 博	
江別ボウリング協会	八 澤 昭 司	八 澤 昭 司	八 澤 昭 司	八 澤 昭 司	
(事務局長)	前 田 優 二	前 田 優 二	前 田 優 二	前 田 優 二	
(事務局次長)		田 村 孝 次	田 村 孝 次	田 村 孝 次	
(事務局員)	長 尾 え り 子	長 尾 え り 子	長 尾 え り 子	長 尾 え り 子	

歴代役員

名称		江別市体育協会	江別市体育協会	江別市体育協会	江別市体育協会
役職名		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
顧問		久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 永親 池永 部利 服今 井利	久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 永親 池永 部利 服今 井利	久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 永親 池永 部利 服今 井利	久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 永親 池永 部利 服今 井利
	会長	嶋 倉 昭	嶋 倉 昭	嶋 倉 昭	嶋 倉 昭
副会長		中川 正志	中川 正志	中川 正志	中川 正志
		田原 藤太郎	田原 藤太郎	田原 藤太郎	田原 藤太郎
		吉川 賢司	吉川 賢司	吉川 賢司	吉川 賢司
理事長	工藤 旻	工藤 旻	工藤 旻	工藤 旻	
副理事長		月田 孝一	月田 孝一	森 孝一	森 孝一
		金内 晴夫	金内 晴夫	金内 晴夫	金内 晴夫
		阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子
監事		後藤 一昭	後藤 一昭	後藤 一昭	後藤 一昭
		青沼 茂子	青沼 茂子	青沼 茂子	青沼 茂子
理事	江別市陸上競技協会	茶木 秀昭	茶木 秀昭	茶木 秀昭	茶木 秀昭
	江別バレーボール協会	星野 健二	星野 健二	星野 健二	星野 健二
	江別卓球連盟	橋本 茂昭	橋本 茂昭	橋本 茂昭	橋本 茂昭
	江別バスケットボール協会	中内 良朗	中内 良朗	源 藤 均	源 藤 均
	江別野球連盟	鎌倉 猛	鎌倉 猛	鎌倉 猛	鎌倉 猛
	江別テニス協会	鈴木 潤治	浦田 和秀	浦田 和秀	浦田 和秀
	江別水泳協会	大野 聰	大野 聰	大野 聰	大野 聰
	江別弓道連盟	藤本 敏男	藤本 敏男	藤本 敏男	藤田 和伸
	江別バドミントン協会	野川 豊	野川 豊	野川 豊	野川 豊
	江別スキー連盟	木内 俊次	木内 俊次	木内 俊次	木内 俊次
	江別市スポーツ少年団	横山 聡	横山 聡	横山 聡	横山 聡
	江別ソフトテニス連盟	工藤 旻	工藤 旻	工藤 旻	工藤 旻
	江別柔道連盟	中ノ目 敏雄	中ノ目 敏雄	中ノ目 敏雄	中ノ目 敏雄
	江別剣道連盟	中山 喜美雄	中山 喜美雄	中山 喜美雄	中山 喜美雄
	江別サッカー協会	堀江 祐一	堀江 祐一	堀江 祐一	堀江 祐一
	江別相撲連盟	藤田 昌之	藤田 昌之	藤田 昌之	藤田 昌之
	江別空手道連盟	金内 晴夫	金内 晴夫	金内 晴夫	金内 晴夫
	江別ソフトボール協会	月田 孝一	月田 孝一	森 孝一	森 孝一
	江別ゲートボール協会	上原 慶一	上原 慶一	石村 憲司	石村 憲司
	江別少林寺拳法協会	蘇武 正春	蘇武 正春	蘇武 正春	蘇武 正春
	江別パワーリフティング協会	出口 敞文	出口 敞文	出口 敞文	出口 敞文
江別市武術太極拳連盟	石山 雅志	石山 雅志	石山 雅志	石山 雅志	
江別ミニバレー協会	阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子	
江別パークゴルフ協会	伊藤 博昭	伊藤 博昭	伊藤 博昭	伊藤 博昭	
江別新体操協会	林 紀博	林 紀博	林 紀博	林 紀博	
江別ボウリング協会	八澤 昭司	八澤 昭司	清水 徹		
(事務局長)		前田 優二	前田 優二	前田 優二	前田 優二
(事務局次長)		田村 孝次	田村 孝次	田村 孝次	田村 孝次
(事務局員)		長尾 えり子	長尾 えり子	長尾 えり子	長尾 えり子

歴代役員

名称		江別市体育協会	江別市体育協会	江別市体育協会	江別市体育協会
役職名		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
顧問		久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 永親 池永 部利 服今 井利	久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 永親 池永 部利 服今 井利	久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 永親 池永 部利 服今 井利	久美屋 清一郎 高間 専造 角谷 正宏 池田 永親 池永 部利 服今 井利
	会長	嶋 倉 昭	嶋 倉 昭	嶋 倉 昭	嶋 倉 昭
副会長		中 川 正 志	中 川 正 志	中 川 正 志	中 川 正 志
		田 原 藤 太 郎	田 原 藤 太 郎	田 原 藤 太 郎	田 原 藤 太 郎
		吉 川 賢 司	吉 川 賢 司	吉 川 賢 司	吉 川 賢 司
理事長		金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫
副理事長		森 孝 一	森 孝 一	森 孝 一	森 孝 一
		阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子
		鎌 倉 猛	鎌 倉 猛	鎌 倉 猛	鎌 倉 猛
監 事		後 藤 一 昭	後 藤 一 昭	後 藤 一 昭	後 藤 一 昭
		青 沼 茂 子	青 沼 茂 子	青 沼 茂 子	青 沼 茂 子
理 事	江別市陸上競技協会	茶 木 秀 昭	茶 木 秀 昭	茶 木 秀 昭	茶 木 秀 昭
	江別バレーボール協会	星 野 健 二	星 野 健 二	星 野 健 二	星 野 健 二
	江別卓球連盟	安 田 敏 昭	安 田 敏 昭	安 田 敏 昭	安 田 敏 昭
	江別バスケットボール協会	源 藤 均	源 藤 均	源 藤 均	源 藤 均
	江別野球連盟	鎌 倉 猛	鎌 倉 猛	鎌 倉 猛	鎌 倉 猛
	江別テニス協会	浦 田 和 秀	浦 田 和 秀	浦 田 和 秀	浦 田 和 秀
	江別水泳協会	安 保 美 幸	安 保 美 幸	安 保 美 幸	安 保 美 幸
	江別弓道連盟	藤 田 和 伸	藤 田 和 伸	藤 田 和 伸	藤 田 和 伸
	江別バドミントン協会	古 川 孝 行	古 川 孝 行	古 川 孝 行	古 川 孝 行
	江別スキー連盟	木 内 俊 次	木 内 俊 次	木 内 俊 次	木 内 俊 次
	江別市スポーツ少年団	横 山 聡	横 山 聡	横 山 聡	横 山 聡
	江別ソフトテニス連盟	村 中 幸 男	村 中 幸 男	村 中 幸 男	村 中 幸 男
	江別柔道連盟	中ノ目 敏雄	中ノ目 敏雄	中ノ目 敏雄	中ノ目 敏雄
	江別剣道連盟	中 山 喜 美 雄	中 山 喜 美 雄	中 山 喜 美 雄	中 山 喜 美 雄
	江別サッカー協会	佐 藤 和 彦	佐 藤 和 彦	佐 藤 和 彦	佐 藤 和 彦
	江別相撲連盟	藤 田 昌 之	藤 田 昌 之	藤 田 昌 之	藤 田 昌 之
	江別空手道連盟	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫
	江別ソフトボール協会	森 孝 一	森 孝 一	森 孝 一	森 孝 一
	江別ゲートボール協会	石 村 憲 司	石 村 憲 司	石 村 憲 司	石 村 憲 司
	江別少林寺拳法協会	野 坂 政 司	野 坂 政 司	野 坂 政 司	野 坂 政 司
	江別パワーリフティング協会	出 口 徹 文	出 口 徹 文	出 口 徹 文	出 口 徹 文
	江別市武術太極拳連盟	石 山 雅 志	石 山 雅 志	石 山 雅 志	石 山 雅 志
	江別ミニバレー協会	阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子	阿瀬川 裕子
江別パークゴルフ協会	高 井 猪 一 朗	高 井 猪 一 朗	佐 藤 勝	佐 藤 勝	
江別新体操協会	林 紀 博	林 紀 博	林 紀 博	林 紀 博	
江別ボウリング協会					
(事務局長)		西 孝 明	西 孝 明	小 池 和 意	小 池 和 意
(事務局次長)		田 村 孝 次	田 村 孝 次		
(事務局員)		長 尾 え り 子	長 尾 え り 子	田 村 孝 次	田 村 孝 次

歴代役員

名称		江別市体育協会	江別市体育協会	江別市体育協会	江別市スポーツ協会
役職名		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
顧問		高池 間 専 造 池 永 春 男 服 部 親 實 嶋 倉 昭 田 原 藤 太 吉 川 賢 郎	高池 間 専 造 池 永 春 男 服 部 親 實 嶋 倉 昭 田 原 藤 太 吉 川 賢 郎	服 部 倉 賢 昭 嶋 川 賢 正 志 中 川 賢 正 志	嶋 倉 正 昭 中 川 正 志
	会長	高 間 専 逸	高 間 専 逸	高 間 専 逸	高 間 専 逸
副会長		中 川 正 志	中 川 正 志	後 藤 一 昭	後 藤 一 昭
		高 井 雅 一	高 井 雅 一	高 井 雅 一	高 井 雅 一
		岩 田 美 佐 男	岩 田 美 佐 男	岩 田 美 佐 男	岩 田 美 佐 男
理事長	古 川 孝 行	古 川 孝 行	古 川 孝 行	古 川 孝 行	
副理事長		安 保 美 幸	安 保 美 幸	安 保 美 幸	安 保 美 幸
		阿 瀬 川 裕 子	阿 瀬 川 裕 子	記 田 英 明	記 田 英 明
		石 山 雅 志	石 山 雅 志	石 山 雅 志	石 山 雅 志
監 事		宮 野 正 春	宮 野 正 春	宮 野 正 春	宮 野 正 春
		青 沼 茂 子	青 沼 茂 子	青 沼 茂 子	青 沼 茂 子
理 事	江別市陸上競技協会	茶 木 秀 昭	茶 木 秀 昭	茶 木 秀 昭	茶 木 秀 昭
	江別バレーボール協会	阿 部 徳 樹	阿 部 徳 樹	阿 部 徳 樹	阿 部 徳 樹
	江別卓球連盟	安 田 敏 昭	安 田 敏 昭	安 田 敏 昭	安 田 敏 昭
	江別バスケットボール協会	源 藤 均	源 藤 均	源 藤 均	源 藤 均
	江別野球連盟	鎌 倉 猛	和 田 信 一 郎	和 田 信 一 郎	和 田 信 一 郎
	江別テニス協会	浦 田 和 秀	浦 田 和 秀	佐 藤 晴 彦	佐 藤 晴 彦
	江別水泳協会	安 保 美 幸	安 保 美 幸	安 保 美 幸	安 保 美 幸
	江別弓道連盟	藤 田 和 伸	藤 田 和 伸	藤 田 和 伸	石 山 貴 久
	江別バドミントン協会	古 川 孝 行	古 川 孝 行	古 川 孝 行	古 川 孝 行
	江別スキー連盟	木 内 俊 次	木 内 俊 次	木 内 俊 次	木 内 俊 次
	江別市スポーツ少年団	横 山 聡	横 山 聡	横 山 聡	横 山 聡
	江別ソフトテニス連盟	村 中 幸 男	記 田 英 明	記 田 英 明	記 田 英 明
	江別柔道連盟	中ノ目 敏 雄	中ノ目 敏 雄	中ノ目 敏 雄	中ノ目 敏 雄
	江別剣道連盟	磯 野 智 宏	磯 野 智 宏	磯 野 智 宏	磯 野 智 宏
	江別サッカー協会	佐 藤 和 彦	佐 藤 和 彦	佐 藤 和 彦	佐 藤 和 彦
	江別相撲連盟	藤 田 昌 之	藤 田 昌 之	藤 田 昌 之	藤 田 昌 之
	江別空手道連盟	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫	金 内 晴 夫
	江別ソフトボール協会	森 孝 一	森 孝 一	森 孝 一	森 孝 一
	江別ゲートボール協会	上 原 慶 一	上 原 慶 一	上 原 慶 一	上 原 慶 一
	江別少林寺拳法協会	野 坂 政 司	野 坂 政 司	野 坂 政 司	野 坂 政 司
	江別パワーリフティング協会	出 口 徹 文	出 口 徹 文	出 口 徹 文	出 口 徹 文
江別市武術太極拳連盟	石 山 雅 志	石 山 雅 志	石 山 雅 志	石 山 雅 志	
江別ミニバレー協会	阿 瀬 川 裕 子	阿 瀬 川 裕 子	阿 瀬 川 裕 子	阿 瀬 川 裕 子	
江別パークゴルフ協会	佐 々 木 健	中 山 チズ子	中 山 チズ子	中 山 チズ子	
江別新体操協会	林 紀 博	林 紀 博	林 紀 博	林 紀 博	
江別ボウリング協会					
(事務局長)		渋 谷 研 一	渋 谷 研 一	渋 谷 研 一	松 井 直 彦
(事務局次長)					
(事務局員)		田 村 孝 次	田 村 孝 次	田 村 孝 次	田 村 孝 次

荣誉に輝く団体、個人(平成13年度～)

年度	団体名・個人名	推薦団体	表彰内容
平成13年度	中央中男子バレーボール部	江別バレーボール協会	最優秀特別賞
	玉城 愛子	江別市武術太極拳連盟	優秀選手賞
	小山 勇夫	江別市陸上競技協会	功労賞
	五十嵐 明彦	江別野球連盟	功労賞
	前田 正義	江別弓道連盟	功労賞
	出淵 精吾	江別バドミントン協会	功労賞
	山田 茂	江別ソフトテニス連盟	功労賞
	河上 アツ子	江別ソフトテニス連盟	功労賞
	角 建雄	江別相撲連盟	功労賞
	上原 慶一	江別ゲートボール協会	功労賞
	角谷 正宏	江別市体育協会	特別功労賞
平成14年度	元江別アニマルズJSC	江別市スポーツ少年団	最優秀特別賞
	江別中央ジュニアバレーボールJSC中央カッター	江別バレーボール協会	優秀団体賞
	西尾 章	江別バレーボール協会	功労賞
	小泉 忠行	江別テニス協会	功労賞
	工藤 旻	江別ソフトテニス連盟	功労賞
	神田 猛	江別剣道連盟	功労賞
	音部 憲夫	江別空手道連盟	功労賞
	保倉 倉一郎	江別ゲートボール協会	功労賞
平成15年度	池田 春男 (社団法人)日本空手協会江別支部	江別市体育協会	特別功労賞
	北風 沙織	江別空手道連盟	最優秀特別賞
	千葉 重信	江別市陸上競技協会	最優秀選手賞
	佐藤 昭彦	江別柔道連盟	功労賞
	山崎 良明	江別水泳協会	功労賞
	金内 晴夫	江別弓道連盟	功労賞
	小川 治子	江別空手道連盟	功労賞
	小川 治子	江別ソフトテニス連盟	功労賞
平成16年度	高橋 正生	江別卓球連盟	功労賞
	多田 東一	江別卓球連盟	功労賞
	敦賀 保恵	江別卓球連盟	功労賞
	遠藤 毅	江別テニス協会	功労賞
	浦島 忠勝	江別バレーボール協会	功労賞
	依本 正平	江別ソフトテニス連盟	功労賞
	寺尾 テル	江別ゲートボール協会	功労賞
平成17年度	安田 敏昭	江別卓球連盟	功労賞
	藤井 孝	江別弓道連盟	功労賞
	藤田 義昭	江別柔道連盟	功労賞
	吉田 義隆	江別ゲートボール協会	功労賞
平成18年度	江別中央ジュニアバレーボールJSC中央カッター (社団法人)日本空手協会江別支部	江別市スポーツ少年団	最優秀特別賞
	米沢 照二	江別空手道連盟	最優秀特別賞
	保木 慎吾	江別ボウリング協会	最優秀選手賞
	太田 英一	江別ボウリング協会	最優秀選手賞
	佐々木 勝也	江別卓球連盟	功労賞
	横山 武雄	江別テニス協会	功労賞
	大郷 正裕	江別弓道連盟	功労賞
	山崎 実	江別市スポーツ少年団	功労賞
	久津間 義一	江別相撲連盟	功労賞
	青沼 茂子	江別空手道連盟	功労賞
	青沼 茂子	江別ソフトボール協会	功労賞

年度	団体名・個人名	推薦団体	表彰内容
平成19年度	(社団法人)日本空手協会江別支部	江別空手道連盟	最優秀特別賞
	三上 義博	江別バレーボール協会	功労賞
	澤 恵子	江別卓球連盟	功労賞
	木村 富子	江別卓球連盟	功労賞
	中内 良朗	江別バスケボール協会	功労賞
	佐々木 一男	江別野球連盟	功労賞
	鎌倉 猛	江別野球連盟	功労賞
	加藤 孝和	江別野球連盟	功労賞
	佐藤 栄子	江別弓道連盟	功労賞
	横山 真	江別バドミントン協会	功労賞
	山上 孝	江別スキー連盟	功労賞
	加藤 憲三	江別空手道連盟	功労賞
	佐藤 一郎	江別バレーボール協会	功労賞
	江別シャトル	江別バドミントン協会	貢献賞
岡部 孝信	江別市体育協会	特別賞	
平成20年度	笹岡 麻喜子	江別バレーボール協会	功労賞
	福士 久美子	江別卓球連盟	功労賞
	井須 清治	江別バドミントン協会	功労賞
	高梨 幸輔	江別柔道連盟	功労賞
	宮野 正春	江別相撲連盟	功労賞
	金内 順子	江別空手道連盟	功労賞
平成21年度	和田 信一郎	江別野球連盟	功労賞
	川嶋 稔史	江別卓球連盟	功労賞
	密山 征雄	江別バドミントン協会	功労賞
	石塚 健治	江別空手道連盟	功労賞
	池永 和親	江別市体育協会	特別功労賞
	服部 實	江別市体育協会	特別功労賞
	今井 利秀	江別市体育協会	特別功労賞
平成22年度	工藤 憲	江別バレーボール協会	功労賞
	福士 登志緒	江別卓球連盟	功労賞
	和田 定夫	江別野球連盟	功労賞
	安田 幸子	江別テニス協会	功労賞
	吉川 賢司	江別柔道連盟	功労賞
	笠羽 浩二	江別空手道連盟	功労賞
	鷺見 武	江別バレーボール協会	功労賞
平成23年度	中川 正志	江別バドミントン協会	功労賞
	西岡 利忠	江別ソフトテニス連盟	功労賞
	林 紀博	江別柔道連盟	功労賞
平成24年度	和田 正司	江別野球連盟	功労賞
	奈良 広子	江別ソフトテニス連盟	功労賞
	出口 徹文	江別バレーボール協会	功労賞
	佐々木 辰雄	江別柔道連盟	功労賞
平成25年度	北風 沙織	江別市陸上競技協会	特別賞
	澤田 里奈	江別スキー連盟	最優秀選手賞
	とわの森三愛高等学校 男子バレーボール部	江別バレーボール協会	特別奨励賞
	山口 修	江別野球連盟	功労賞
	杉本 孝子	江別テニス協会	功労賞
	田村 孝次	江別バレーボール協会	功労賞

年度	団体名・個人名	推薦団体	表彰内容
平成26年度	とわの森三愛高等学校 女子ソフトボール部	江別市体育協会	最優秀特別賞
	坂上 信子	江別水泳協会	功労賞
	野川 豊	江別バドミントン協会	功労賞
	藤田 昌之	江別相撲連盟	功労賞
	岩野 麗子	江別ソフトテニス連盟	功労賞
	小池 和意	江別バレーボール協会	功労賞
	笠羽 利憲	江別空手道連盟	功労賞
平成27年度	右代 啓祐	江別市体育協会	特別賞
	蝦名 冬馬	江別市武術太極拳連盟	特別賞
	稲葉 里奈	江別スキー連盟	最優秀選手賞
	伊藤 博明	江別パークゴルフ協会	功労賞
	工藤 祐三	江別水泳協会	功労賞
	中ノ目 敏雄	江別柔道連盟	功労賞
	茶木 秀昭	江別市陸上競技協会	功労賞
	飯田 進作	江別野球連盟	功労賞
	江口 慎一	江別空手道連盟	功労賞
	渋谷 研一	江別バレーボール協会	功労賞
平成28年度	蝦名 冬馬	江別市武術太極拳連盟	特別賞
	稲葉 里奈	江別スキー連盟	最優秀選手賞
	永浦 廣	江別相撲連盟	功労賞
	福田 順二	江別柔道連盟	功労賞
	田原 藤太郎	江別野球連盟	功労賞
平成29年度	嶋倉 昭	江別市体育協会	特別功労賞
	田原 藤太郎	江別市体育協会	特別功労賞
	吉川 賢司	江別市体育協会	特別功労賞
	大久保 ひかり	江別卓球連盟	特別賞
	福士 志津男	江別市スポーツ少年団	功労賞
	山本 幸秀	江別水泳協会	功労賞
	伊藤 俊悦	江別野球連盟	功労賞
	最上 栄子	江別市陸上競技協会	功労賞
	阿部 忠夫	江別バドミントン協会	功労賞
平成30年度	右代 啓祐	江別市体育協会	特別賞
	須田 寿美江	江別バドミントン協会	功労賞
	十倉 宏	江別柔道連盟	功労賞
	伊藤 重次	江別野球連盟	功労賞
	山森 正春	江別パワーリフティング協会	功労賞
	村中 幸男	江別ソフトテニス連盟	功労賞
	山西 裕子	江別市陸上競技協会	功労賞
	松田 和子	江別バレーボール協会	功労賞
令和元年度	中川 正志	江別市体育協会	特別功労賞
	鎌田 慎ノ介	江別市武術太極拳連盟	特別賞
	山田 和弘	江別バレーボール協会	功労賞
令和2年度	出口 敏文	江別パワーリフティング協会	特別賞
	渡辺 孝二	江別ソフトテニス連盟	功労賞
	本間 章彦	江別バレーボール協会	功労賞
	堤 祐一	江別パワーリフティング協会	功労賞
	小山田 俊之	江別野球連盟	功労賞

江別市スポーツ協会規約

目 次

- 第1章 総則 (第1条・第2条)
- 第2章 目的及び事業 (第3条・第4条)
- 第3章 組織 (第5条―第10条)
- 第4章 会議 (第11条―第13条)
- 第5章 専門部会 (第14条)
- 第6章 事務局 (第15条)
- 第7章 会計 (第16条・第17条)
- 第8章 補則 (第18条)
- 附則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、江別市スポーツ協会（以下、本会」という。）と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、江別市民体育館内に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本会は、市内に組織されるスポーツ団体を総括し、その団体との連絡調整を図るとともに、スポーツの振興と普及を通して、市民の健全な発展と明るく豊かな市民生活の形成に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) スポーツ団体との連絡調整に関する事。
- (2) スポーツ団体の育成強化に関する事。
- (3) スポーツ活動の調査研究に関する事。
- (4) スポーツ施設の整備充実に関する事。
- (5) スポーツ大会、講習会等スポーツに関する各種行事の実施及び奨励に関する事。
- (6) スポーツ功労者及び優秀競技者の表彰に関する事。
- (7) 江別市スポーツ少年団に関する事。
- (8) その他本会の目的達成に関する事。

第3章 組織

(組織)

第5条 本会は、市内に結成されているスポーツ団体及び関係団体（以下「加盟団体」という。）をもって組織する。

2 加盟団体に関し、必要な事項は理事会において別に定める。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 理事長 1名
- (4) 副理事長 若干名
- (5) 理事 若干名
- (6) 監事 2名

(役員を選出)

第7条 会長、副会長及び監事は、総会において選出する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 理事は、各加盟団体において1名を選出する。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長の指名した副会長がその職務を代理する。
- 3 理事長は、会長の指示に基づき会務を執行する。
- 4 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるときは、あらかじめ理事長の指名した副理事長がその職務を代理する。
- 5 理事は、理事会を構成し、必要な事項を審議する。
- 6 監事は、会計を監査する。

(任期)

第9条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補充役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期が満了しても、後任者が就任するまでは、その職務を行うものとする。

(顧問)

第10条 本会に、総会の推薦により、顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、重要な会務の諮問に応じる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会及び理事会とする。

(総会)

第12条 総会は、必要に応じて会長が招集する。

- 2 総会は、理事及び各加盟団体から2名ずつ選出する評議員をもって構成し、次に掲げる事項を審議決定する。
 - (1) 規約の制定及び改廃に関すること。
 - (2) 本会の運営に関すること。
 - (3) 事業計画に関すること。
 - (4) 予算及び決算に関すること。
 - (5) その他重要な事項に関すること。

- 3 総会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決するところによる。

(理事会)

第13条 理事会は、必要に応じて会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 理事会は、会長、副会長、理事長、副理事長及び理事をもって構成し、総会の決定事項その他会務遂行上必要な事項を審議執行する。

第5章 専門部会

(専門部会)

第14条 本会に専門的事項を調査審議するため、必要に応じて専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会の委員は、会長が委嘱する。

第6章 事務局

(事務局)

第15条 本会の会務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

第7章 会計

(会計)

第16条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 加盟団体負担金
- (2) 補助金
- (3) 寄付金
- (4) その他収入

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日をもって終わる。

第8章 補則

(補則)

第18条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は会長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規約は、昭和63年6月2日から施行する。

(旧規約の廃止)

2 江別市体育協会規約（昭和36年9月15日制定。以下「旧規約」という。）は、廃止する。

(経過規定)

3 この規約施行の際、現に旧規約により会長、副会長、理事長、副理事長及び監事の職にある者については、それぞれこの規約による会長、副会長、理事長、副理事長及び監事と、常任理事の職にある者については、理事と、理事の職にある者については、評議員と見なす。

附 則

この規約は、2020年4月1日から施行する。

編集後記

江別市スポーツ協会創立70周年の令和2年、前年に中国で発生したと言われる新型コロナウイルスは瞬く間に世界に蔓延し、未だその感染力は衰えをみせていない。スポーツ界はもとより社会生活、経済活動にも大きな爪痕を残しています。

このような状況の中、記念誌を発行するにあたり、本来ならばこれまでにお世話になった関係各位からの祝辞をいただくべきところではありましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策での対応で大変お忙しい事と推察し、これを断念しました。

また江別市スポーツ協会ゆかりの方々からの特別寄稿を頂くことも検討しましたが、これも断念せざるを得ませんでした。

それゆえに内容については、非常に物足りないものとなりましたが、今後を迎える80周年、90周年そして100周年への架け橋となるよう思いを込め、創立50周年からの20年間を足跡として書き留める事としました。

江別市スポーツ協会加盟団体からは、新型コロナウイルス感染防止対応等大変お忙しい中、原稿、写真を提供していた事に改めて感謝とお礼を申し上げます。多くの加盟団体からは思いを込めた長文の原稿をいただきましたが、紙面の都合によりカットせざるを得なかったことは本当に申し訳なく、また誤字脱字もあろうかと大いに反省しておりますのでご容赦願います。

新型コロナウイルス感染が終息への兆しが見えている今、希望の光の中で江別市スポーツ協会加盟団体の発展と関係される方々の健康を祈念いたします。

令和3年3月 記

江別市スポーツ協会創立 70 周年記念誌発行委員会

江別市スポーツ協会創立70周年記念誌

発行 令和3年 6月20日

編集者 江別市スポーツ協会創立 70 周年記念誌発行委員会

委員長 古川 孝行

副委員長 安保 美幸・記田 英明・石山 雅志

発行者 江別市スポーツ協会

〒069-0813 江別市野幌町 9 番地 江別市民体育館

TEL 011-802-8822 FAX 011-385-7192

印刷 (株)のっぽろ印刷

